

ALINCO

COMMUNICATIONS RECEIVER

DJ-X82

取扱説明書



アルインコの DJ-X82 をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させるために、まずこの取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。

アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管してください。

This product does not comply with FCC, CE and other foreign Standards, and is intended for use only in Japan.

Alinco declines any responsibilities and technical supports in case this product is used abroad.

アルインコ株式会社

付属品の確認

DJ-X82には次の付属品が同梱されています。

- クイックガイド
- 周波数データリスト
- ニッケル水素バッテリー EBP-179 (1.2V-1900mA)×2
- ホイップアンテナEA-154 (SMAコネクター)
- ベルトクリップ(装着済)EBC-28 ビス1本付
- USBケーブルEDS-39
- 保証書

不足があればすぐに購入元にご相談ください。

もくじ

1. 機能と特徴	6
2. 安全上のご注意	7
2-1 安全上のご注意	7
2-2 ご使用前のご注意	13
3. 付属品の使いかた	17
3-1 アンテナの取り付けかた／取り外しかた	17
3-2 電池の入れかた・ご注意	17
3-3 ベルトクリップの取り付け、取り外しかた	19
3-4 USBケーブルの使いかた	19
3-5 別売充電スタンドの使いかた・ご注意	20
3-5-1 充電スタンドの接続	20
3-5-2 充電の方法	20
4. 各部の名称と操作	22
4-1 本体の名称と動作	22
4-1-1 上面部、前面部	22
4-1-2 側面部	23
4-1-3 キー操作	23
4-2 ディスプレイの表示	25
5. 基本操作	26
5-1 電源を入れる、切る	26
5-2 音量を調整する	26
5-3 スケルチを調整する	27
5-3-1 操作方法	27
5-4 モニター/ミュート機能	28
6. 運用モード	29
6-1 VFOモードでの受信	30
6-2 メモリーモードでの受信	33
6-2-1 メモリーの種類と使いかた	34
6-2-2 メモリーチャンネルの登録	35
6-2-3 メモリーチャンネルとバンクの消去	37
6-2-4 メモリーチャンネルの別バンクへの移動	38
6-2-5 メモリーチャンネルをVFOモードにコピーする	39
6-2-6 メモリスキップとお気に入り選択機能	39
6-2-7 メモリーネーム機能	40
6-3 国際VHF(マリン無線)	42
6-4 受信について	43
7. キーボードに割り当てられた機能	44
7-1 ワイルドキー機能(ショートカット)	44
7-2 受信モード切り替え機能	44
7-3 アッテネーター(ATT)機能	45

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

7-4 スキャンスピード切り替え機能	46
7-5 FMラジオ	46
7-6 バッテリーセーブ機能	47
7-7 イヤホンアンテナ	47
7-8 周波数シフト機能	48
7-8-1 設定のしかた	48
7-9 充電機能設定	50
7-10 空線信号キャンセラー機能	50
7-11 プライオリティ機能	51
8. 便利な機能	53
8-1 キーロック機能	53
8-1-1 キーロックの方法	53
8-1-2 キーロック時にできる操作	53
8-2 スキャン機能	53
8-2-1 VFOスキャン	54
8-2-2 メモリースキャン	54
8-2-3 プログラムスキャン(サーチ)	55
8-3 メモリースキャンとプログラムスキャンのリンク設定・確認機能	56
8-4 盗聴器発見機能	59
8-4-1 SILENTモードでの探知	60
8-4-2 SOUNDモードでの探知	60
9. セットモード	62
9-1 表示設定	63
9-1-1 LAMP動作の選択	63
9-1-2 コントラスト設定	63
9-2 電源設定	64
9-2-1 電池の種類設定	64
9-2-2 減電池警告音設定	64
9-2-3 APO機能	65
9-3 国際VHF(マリン無線)の設定	65
9-3-1 呼び出しチャンネル(CH16)自動引き戻し機能	66
9-4 スキャン設定	66
9-4-1 スキャン停止時間設定	67
9-4-2 スキャンタイプ切り替え	67
9-4-3 プライオリティ待ち受け時間設定	68
9-4-4 プライオリティ停止時間設定	68
9-4-5 スキップスキャンの動作	69
9-5 キー操作設定	69
9-5-1 MONIキー動作の設定	70
9-5-2 モニター/ミュート機能の設定	70
9-5-3 ワイルドキー(1・2)への機能割り当て	71
9-5-4 ダイヤルターボ機能	71
9-5-5 キーロック中のダイヤル操作	71
9-6 メモリー設定	72
9-6-1 メモリー保護機能	72
9-7 音操作	72
9-7-1 ビープ音機能の解除	73
9-7-2 ベル機能	73

9-7-3 イヤホン断線検知機能	73
9-8 盗聴器発見機能設定	74
9-8-1 盗聴器発見機能の感度設定	74
9-8-2 盗聴器発見機能モードの切り替え	75
10. チャンネル表示モード	76
11. クローン／PC接続機能	77
11-1 クローン時の接続方法	77
11-2 データを受け取る側の操作	78
11-3 データを送る側の操作	79
12. リセット機能	80
12-1 リセットとメモリーデータについて	80
13. 保守・参考	81
13-1 故障とお考えになる前に	81
13-2 オプション一覧	82
13-3 アフターサービスについて	82
14. 索引	84
15. 定格	86

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

1. 機能と特徴

DJ-X82はVHF / UHF帯の電波メディアを受信する多機能レシーバーです。

- 1** 広範囲の周波数に対応し、航空無線や業務通信などを受信できます(一部周波数を除く)。
- 2** 充電、PC編集ソフト接続がUSB TYPE-Cケーブルで可能になりました。
- 3** イヤホンのコードをアンテナとして、FMラジオのような強い電波を受信できます。
- 4** 周波数入力や機能の操作が素早く行えるテンキー(数字キー)を採用しています。
- 5** 本体同士で設定や各種データをコピーできるクローン機能を搭載。またパソコンと接続して設定やデータを編集することもできます。
- 6** 空線信号キャンセラー機能で鉄道無線で使用されている通話の無い時に聞こえる「ピー」や「ギャラギャラ」という音にスケルチをかけることができます。
- 7** 強い信号を探すときには速く、弱い信号を探すときにはゆっくり確実に、スキャンスピードを変更でき、5段階から選べます。
- 8** よく使うセットモードの機能にジャンプできるワイルドキーを2つ採用しました。
- 9** 盗聴器発見機能を2モード搭載。盗聴器が使われていそうな場合、表示と警告音で知らせてくれます。




2. 安全上のご注意

2

2-1 安全上のご注意

絵表示について

本製品を正しく安全にお使いいただき、使用者や周囲の人々への危害や財産へ損害を未然に防止するため、下記の表示をしています。

表 示	表示の意味
 危険	これを無視して誤った使用をすると、「使用者および周囲の人々が、死亡または重傷を負う危険が差し迫っていることが想定される内容」を示しています。
 警告	これを無視して誤った使用をすると、「使用者および周囲の人々が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
 注意	これを無視して誤った使用をすると、「使用者および周囲の人々が、傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

免責事項について

下記について、法令上の賠償責任が認められた場合を除き、弊社は一切責を負いません。

- 天災、人災、弊社の責任以外の火災、製品使用者の違法、故意、過失、取扱説明書の記載を守らない事を含む誤用、その他異常な条件下での使用により生じた事故と損害
- 本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因にて生じる付随的な損害、不利益（受信できなかったことで生じた損失や事業の中断など）
- 本製品の保証点検・修理を受ける際に発生する取り外し、取り付け費用
- 弊社が関与していない接続機器やソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害
- 故障や修理のために喪失した個別の設定内容やチャンネルのデータ、表面に施された装飾やカスタマイズ用に使われた部品（ラベル類、圧着端子、ブラケット、ゴム足等）

■ 共通（受信機本体 / バッテリー / 別売充電器と AC アダプター）

2

⚠ 危険

- ◎引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。本製品は防爆仕様ではありません。
- ◎次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
 - 指定以外の AC アダプターを接続しないでください。
 - 指定以外のバッテリーを充電しないでください。
 - 指定以外の充電器を使用しないでください。
- ◎直射日光が当たる場所、空調機や火のそばなど、温度が高くなる場所には絶対に置かないでください。
破裂、火災、故障の原因になります。真冬でも車内や窓際は日光が当たると製品の表面はバッテリーの異常につながる温度まで上昇します。エアコン暖房程度の温風でも連続して当たっていると高温になります。

⚠ 警告

- ◎分解、改造をしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎発煙、異臭、異音、しみなどの異常がある場合は、使用しないでください。
継続して使用すると火災、感電、故障の原因になります。すぐに電源を切り、バッテリーを取り出し、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜き、煙が出なくなったことを確認してから、お買い上げの販売店、または、弊社サービスセンターにご連絡ください。
- ◎小さいお子様の手が届かない場所で使用、保管してください。
感電やけがの原因になります。
- ◎電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたりしないでください。
電源コードが破損し、火災、感電、やけど、けがの原因になります。

 **注意**

- ◎ぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所、振動の多い場所には置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

■ 受信機本体 **警告**

- ◎本製品を振り回したり、投げたりしないでください。
本体や部品が外れて人や壁などに当たり、けがや故障、破損の原因になります。
- ◎航空機内など家電製品の使用が制限される場所では、許可なく使用しないでください。
安全に支障をきたす原因になります。使用する場所の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

 **注意**

- ◎付属品および、弊社指定のオプション品以外は使用しないでください。
故障や感電など事故の原因になります。
- ◎指定以外の温度範囲で使用しないでください。
記載の温度範囲以外でのご使用は故障、動作不良、発熱発火の原因となる場合があります。
- ◎大きな音量でイヤホンやヘッドホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

◆ 別売充電器・充電スタンド

⚠ 警告

- ◎ 次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。また、水にぬれたときは使用しないでください。
 - ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。
 - 充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
 - 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。

⚠ 注意

- ◎ 次の事項を守らないと、液漏れ、故障、動作不良の原因になります。
- 10℃～40℃以外の環境で充電しないでください。
 - 充電後や充電しないときは、ACアダプターを抜いてください。
 - 指定以外の電圧で使用しないでください。

◆ 別売 AC アダプター・USB アダプター

⚠ 警告

- ◎ 濡れた手では絶対にアダプターに触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎ アダプターや接続ケーブルに傷がある場合や、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
火災、感電、故障、破損の原因となります。
- ◎ 次の事項を守らないと、火災、感電、故障の原因となります。
- 埃がたまる場所にあるコンセントに接続しないでください。
(トラッキングと呼ばれる現象で発火することがあり、大変危険です。)
 - アダプターを抜き差しするときは、電源コードやUSBケーブル(以下ケーブル)を引っ張らないでください。
 - ケーブルの上に重いものを載せないでください。
 - ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

- 水などで濡れやすい場所では使用しないでください。
- アダプターをタコ足配線して使用しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所では使用しないでください。

◆ バッテリー

⚠危険

- ◎火や空調機のそば、直射日光の当たる車内や窓際など、高温になる場所での使用、充電、放置は絶対にしないでください。

バッテリーの性能や寿命が低下、発熱、液漏れ、やけどの原因になります。真冬でも温風や直射日光が当たると危険な温度まで上昇します。

- ◎次の項目を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液漏れ、感電、やけどの原因になります。

- 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- 液体につけたり、濡らしたりしないでください。
- バッテリーの端子に半田付けをしないでください。
- バッテリーの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- 金属類（針金、ネックレス、鍵など）や導電性のあるものをバッテリーの上に放置したり、バッテリーと一緒に持ち運んだりしないでください。
- バッテリーからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。失明の恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠警告

- ◎使用中や充電中にいつもより発熱すると感じたときは、使用を中止してください。

使用を続けると、液漏れ、故障の原因となります。地域のルールに従って廃棄してください。

⚠注意

2

◎次の注意事項を守らないと、発熱、液漏れ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

- バッテリーを完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーを保管する場合は、バッテリーを完全に使い切ってから、満充電してください。
- 受信機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- 保管するときは必ずバッテリーを受信機から外してください。装着したままだと過放電して充電できなくなります。

バッテリーの特性と寿命について

- ◎バッテリーは消耗品です。充電回数は 300 回～ 500 回が目安です。
充電状況を定期的を確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーに異常があると思われるときは、使用を中止してください。
- ◎使用せずに保管している状態でも、劣化が進行します。
劣化がはじまると、運用時間が短くなります。
- ◎劣化したバッテリーは発熱の原因となることがありますので、使用しないでください。弊社では 3 年を目安に、長くても 5 年でお買い換えをお勧めしています。

電磁ノイズについて

次のようなインバータ回路を内蔵している電子機器および、ハイブリッドカー、電気自動車の車内や周辺では電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

インバータ回路内蔵の主な電子機器

- LED 照明機器 ●電磁調理器 ●給湯器
- 自動車の電子機器 ●太陽光発電装置など

2-2 ご使用前のご注意

2

電波法上のご注意 - 必ずお読みください。

◎この製品を日本国内で使用するのに特別な資格や許可、免許は必要ありませんが、電波法第 59 条は「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対しておこなわれる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」とし、第 109 条で「無線局の取扱中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1 年以下の懲役又は 50 万円以下の罰金に処する。」と罰則規定を設けています。さらに第 109 条の 2 で「暗号（秘話）通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし又は窃用する目的で、その内容を復元（秘話解除）した時は、1 年以下の懲役又は 50 万円以下の罰金に処する。」と定めています。この受信機が受信できる音声や文字、画像などのデータ信号は、放送以外は全てこの無線通信にあたります。その存在や通信内容を通信者の許可なく第三者に伝えたり、自分で利用したり、メディア（雑誌、SNS 等）で公開したり、これらの目的のために暗号を解読したりすると罰せられます。

◎国や地域によっては公安上の理由から受信機の持ち込みや使用が厳しく制限されており、違反すると罰せられます。海外旅行には原則的に受信機をお持ちにならないことをお勧めします。通信の受信が認められている国や地域でも、日本の電波法第 59 条に類似する通信やプライバシーの守秘や秘話解読の禁止が法律で定められています。

◎FCC、CE、その他の海外での使用に求められる規格認証を取得していない日本国内向けの製品です。海外での使用に対して弊社は一切の責任を負わず、アフターサービスのご提供も致しかねます。

This product does not comply with FCC, CE and other foreign Standards, and is intended for use only in Japan. Alinco declines any responsibilities and technical supports in case this product is used abroad. Many countries strictly prohibit imports and use of communications receivers without permission.

取扱上のお願ひ - 必ずお読みください。

2

本製品をご使用になるうえで、特に注意していただきたい事項を記載しています。必ずお読みください。正しく使わないと製品保証の対象外になったり、トラブルや故障の原因になったりすることがあります。

- ◎受信機を娯楽施設・宿泊施設・遊技場の近く等で使用していると盗聴の誤解を受けたり、トラブルになったりする恐れがあります。テーマパーク、遊技場、コンサートホール等で、場内に受信機の持ち込みが禁止されているところがあります。注意を受けたら速やかに従ってください。
- ◎防水、防塵ではありません。水分や粉塵が無線機内部に入って故障した場合、保証の対象にはなりません。意識していなくても内部に入りがちですので特にご注意ください。
- ◎理由の如何と製品保証期間に関わらず、弊社技術員以外が本製品を分解、再組み立てしたときは製品保証の対象外となります。
- ◎付属品、および弊社指定のオプション品以外のアクセサリを接続して使用すると故障や動作不良の原因になることがあります。他社製品をお使いになっての不具合は保証期間に関わらず、製品保証の対象外です。他社製品を本製品に使うための改造サービスは有償、無償にかかわらず行っておりません。
- ◎屋外で使用するときは必ずイヤホンやヘッドセットをお使いください。大きな音が迷惑になるばかりでなく、使用者と関係が無い通信を第三者に聞かせると守秘義務違反で罰せられる可能性があります。
- ◎この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用しないでください。
事前の個別契約が無い限り、誤動作、不具合や損害が生じても一切の責任は負いかねます。
- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）を絶対に使用しないでください。ケースが損傷したり、文字が変質したり、塗装がはがれたりします。また機器内部に洗剤などが浸透すると故障の原因になります。
- ◎本体と別売充電スタンドの接触端子はときどき乾いた綿棒で軽く拭って清掃してください。ほこりや汚れは充電不良の原因になります。
- ◎清掃には市販のデジタル家電用のクリーニング器具が最適です。防水ではないので湿ったクリーナーの使用は余分な水分を絞ってから使い、すぐ乾拭きするなど、十分ご注意ください。

- ◎機種名、数字や記号が書かれたラベル類は一切、絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。盗品や違法改造品とみなされる場合があります、弊社の製品保証対象から外れるため、弊社のアフターサービスも受けられなくなります。
- ◎寒い屋外から急に暖かい室内に移動した時や、湿度が非常に高い場所で使うと内部に水滴が付くことがあります（結露）。濡れた状態で電源を入れると故障の原因となるのでご注意ください。
- ◎廃棄するときは自治体の指定する方法で家電ごみとして処分してください。
- ◎電池類は高温や低温環境では一時的に使用できる時間が短くなり、長時間その状態が続くと電池の劣化が進みます。ケースに入れるなどして、常温に近づけてお使いください。
- ◎乾電池は推奨使用期限内にお使いください。古い電池は性能の低下、内部素材の劣化による液漏れの原因になります。使用期限は「月－2桁」または「月－西暦年号」の順で、本体またはパッケージに表示されています。例：01－23、01－2023は2023年1月を表します。
- ◎別売の乾電池をお使いになるときは、信頼できる品質のアルカリ乾電池をお使いください。マンガン乾電池は運用時間が短くなり、動作不良の原因になります。リチウム乾電池も使用できますが弊社ではアルカリ乾電池で動作検証しています。
- ◎アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。
- ◎アンテナを持って本製品を持ち運んだり、折り曲げたり、ねじったりすると故障します。
- ◎お手入れの際は安全のため必ず本体の電源を切って、電池をとりはずし、アダプター類はACコンセントから抜いてください。
- ◎広帯域受信機は本体の内部発振（スプリアス）によって受信できない、あるいは雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
- ◎メモリーチャンネルへのデータ書き込みや周波数データリストが付属している場合、それら周波数はあくまでも参考のもので、更新もしておりません。市販の周波数帳や受信ガイド、インターネット上にある情報などを参考にしてください。
- ◎使わないときでも、時々通気の良いところに置いて通電してください。長く放置しているとバッテリーの劣化のほか、機構部品のゴムや樹脂も加水分解で劣化してもろくなったり白化したりします。
- ◎ズボンのポケットに入れて使用すると、座ったときに無理な力が加わり故障の原因になります。

- ◎テレビ、ラジオ、LED ライト、ソーラーパネル、パソコン、カーナビなどの電気・電子、車載機器の近くで使うとノイズなどの電波障害を受けることがあります。

【運転中の使用について】

- ◎運転中に受信機を手を持って操作しないでください。このような行為は運転中の携帯電話使用と同様に罰せられます。受信機の使用は必ず安全な場所に停車してから行ってください。
- ◎外部に音が聞こえないような状態にして運転しないでください。外部アンプや、大型スピーカーをつないで周りの音が聞こえないような大音量で受信したり、耳を完全に覆うタイプのヘッドホンを使ったりすると罰せられることがあります。ほとんどの地方自治体では運転中にイヤホン・ヘッドホン類を使用すること自体を規制しています。
- ◎受信機をベルトクリップなどで体に装着して運転しないでください。アンテナや付属品が引っ掛かり、運転の支障となることがあります。そちらに注意を引かれると前方不注意の原因となります。

【充電についてのご注意】

- ◎充電しているとき、電源ラインから入るノイズでSメーターが振れたり、雑音聞こえたりすることがあります。
- ◎パソコンのUSB 端子を使用して充電するときは本製品の電源を切ってください。電源が入ったままだと正しく充電できません。
- ◎モバイルバッテリーは電池容量によって充電時間や使用時間が変わります。

【雷について】

屋外で受信機を持っていると雷撃の危険があります。雷が聞こえるような場所では受信機を持たず、屋内など安全な場所に避難してください。電線を伝わった落雷が受信機やアクセサリを故障させることがあるのでUSB や AC アダプターを使用中に雷が聞こえたらコンセントから抜いて、外部アンテナを使用中は受信機から外してください。

【登録商標 / 著作権 / 特許】

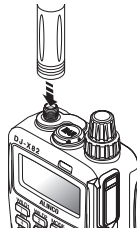
アルインコ株式会社、アルインコ、Alinco Inc.、アルインコロゴは、アルインコ株式会社の登録商標です。Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。なお、本文中では、TM、® などのマークを省略しています。

3. 付属品の使いかた

3

3-1 アンテナの取り付けかた／取り外しかた

- 1 アンテナの根元を持ち時計方向(右)にゆっくりと回します。
回転が止まったら確実に取り付けたことを確認してください。
- 2 外す時はアンテナを反時計方向(左)にゆっくりと回します。

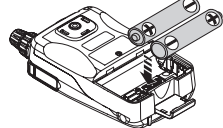
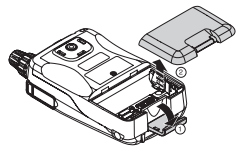


参考

- ・ アンテナコネクタは規格品のSMAタイプです。日本メーカー製の受信用アンテナに適合しますが、もし他社製品が相性問題などで適合しなくても責はご容赦ください。
- ・ 本機のアンテナは折れにくくするため通常のものより柔軟な素材でできていますので、たわんで見えます。
- ・ 外部アンテナの接続にも、このコネクタを使います。

3-2 電池の入れかた・ご注意

- 1 ロックを外してカバーを開けます。
外したカバーをなくさないよう注意してください。
- 2 ケース内の+・-の表示にしたがって、付属バッテリー(EBP-179)2本を入れます。
単三形アルカリ乾電池でもお使いになれます。

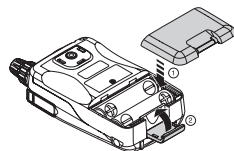


注意

- ・ +・-の向きを間違わないよう注意してください。本体の故障・発熱・液漏れの原因になります。
- ・ バッテリーも乾電池も使わないときは必ず抜いて保管してください。液漏れ、待機電流による放電などを防ぐためです。



3 カバーを閉めてロックをかけます。

きちんと閉まったことを確認してください。



本機は付属のニッケル水素バッテリーの他に、単三形アルカリ乾電池またはリチウム乾電池でもご使用いただけます。

●電池残量について

電池の残量が少なくなるとディスプレイに  が点灯し、さらに少なくなると  に変わります。

付属のニッケル水素バッテリーをご使用のときは充電をしてください。乾電池をご使用のときは新しい電池と交換してください。

十分に電池残量があるときはバッテリーマークは表示されません。

●ニッケル水素バッテリーや乾電池(以下バッテリー)の注意点

- ・ 付属のバッテリーは、お買い上げ後に充電してからお使いください。
- ・ 構造上、市販品のバッテリーは本機では充電できません。
- ・ 充電は0℃～40℃の温度範囲内で行ってください。
- ・ バッテリーの改造や分解、火中や水中への投入は危険ですから絶対にしないでください。
- ・ バッテリーの端子は絶対にショートさせないでください。機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
- ・ 必要以上に長時間の充電(過充電)は避けてください。液もれや、バッテリーの性能を低下させる恐れがあります。
- ・ 電源スイッチを切っていても、待機電流によりバッテリーは消費されます。非常時の備蓄用等、やむを得ずバッテリーを入れた状態で長期保管される場合は必ず十日に一度程度は通電して、バッテリーが放電していないか確認してください。電気製品にバッテリーを装着したままでの保存は劣化、液漏れなどの原因になります。バッテリー本体とバッテリーに関連して起こった本体側の不具合は保証の対象外となります。
- ・ バッテリーの保存は、-10℃～+45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い場所では、バッテリーの液漏れや、サビの原因になりますので避けてください。
- ・ バッテリーは正しく使っていても劣化します。3年をめどにお買い換えください。
- ・ 使用済みのバッテリーは地域のルールに従って廃棄してください。
- ・ バッテリーはその性質上、充電せず放置すると劣化して充電できなくなることがあります。長期間ご使用にならないときは満充電にして、バッテリーを本体から取り外して保存し、最低でも6ヶ月に一度は満充電にしてください。
- ・ バッテリーは消耗品ですので製品保証の対象ではありません。
- ・ バッテリーやアルカリ乾電池を持ち運ぶときは、ビニール袋で包むなど端子がショートしないよう十分に気を付けてください。

3-3 ベルトクリップの取り付け、取り外しかた

※ベルトクリップは取り付けられた状態で梱包されています。

1 ベルトクリップを本体後面の溝に合わせます。

2 ネジを時計方向(右)に回します。

付属品以外のネジを使うと本体が破損する可能性があります。絶対に規定以外のネジをお使いにならないでください。

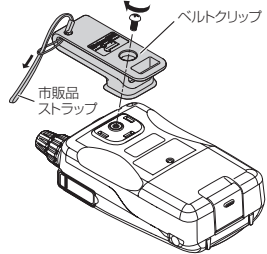
回転が止まったら確実に取り付けられたことを確認してください。

3 外す時はネジを反時計方向(左)に回します。

ベルトクリップで体の横、または背中に固定して、イヤホンは引っかけられないようになるべく背中を通して余分な長さを束ねてください。かかんだ時にプラグやアンテナに負荷がかからないようご注意ください。

※使用しているとネジが緩むことがあります。ときどき点検してください。

※市販品のストラップもクリップの穴に通してお使いになれます。



3-4 USBケーブルの使いかた

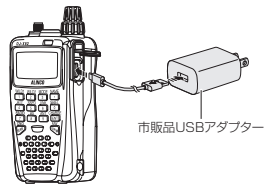
1 電池を取り付けます。

2 本機のUSBポートのキャップをあけます。

3 USBケーブルのType-C 側を本機に接続します。

4 USBケーブルのType-A 側を別売のUSB アダプターに接続します。

※市販のUSBアダプター全般で充電できますが、受信時のノイズの出方にはアダプターによってばらつきがあります。



5 USBアダプターをAC100Vのコンセントに差し込みます。

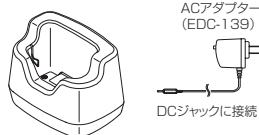
※充電中は熱を持つことがありますが、異常ではありません。

※USB ポートのゴムキャップは毎回、確実に閉じてください。USBケーブルを接続した状態で長時間空けているとゴムにクセがついて閉じにくくなる場合があります。正しく閉められないときは水分や汚れにご注意ください。USBポートに何も接続していない状態でしばらく放置するとクセが取れて正しく閉められるようになります。

3-5 別売充電スタンドの使いかた・ご注意

3-5-1 充電スタンドの接続

1 別売(EDC-197)の充電スタンド後側のDCジャックにACアダプターのプラグを差し込みます。



2 ACアダプターをAC100Vのコンセントへ接続します。

3-5-2 充電の方法

1 本機に付属のバッテリーを入れます。

バッテリーの入れ方は「電池の入れ方・ご注意(※P17)」をご参照ください。

2 本機を充電スタンドに挿入します。



参考

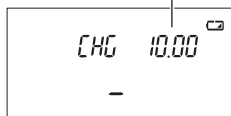
・決まった電圧の弱い電流を常に流して充電する方式です。他方式の充電器のような満充電をお知らせする機能はありません。

3 充電が開始されます。

- ・電源OFFのときは左のような表示がでます。
- ・電源ONのときはバッテリーマークが点滅します。

充電できないときは充電機能がOFFになっていないか確かめてください。
([7-9 充電機能設定(※P50)])

充電終了までの残り
時間タイマー



3

**参考**

- ・過充電を防止するため、電源OFF時は10時間たつと自動的に充電を終了します。
- ・受信しながらでも充電ができますが、タイマーは作動しませんので過充電にご注意ください。
- ・充電中に赤色LEDを点灯させることもできます([7-9 充電機能設定(※P50)])。このとき信号を受信するとランプはオレンジ色に変わります。
- ・電源OFFのとき電源供給が途切れると「NO DC」と表示されます。
- ・電源供給が途切れたまま1分が経過する、または電源がONになると残り時間タイマーはリセットされます。
- ・ニッケル水素バッテリーは継ぎ足し充電を繰り返すと劣化します。バッテリーの残量が気になるときはスペアのバッテリーや乾電池をお持ちください。
- ・1か月に1度を目安に、完全にバッテリーを使い切ってから途中で使わずに電源を切って満充電する「リフレッシュ充電」をするとバッテリーを状態よく保てます。
- ・バッテリーや乾電池は使用時・充電時以外は抜いて保管するのが最良です。待機電流による放電、液漏れの防止になります。

**注意**

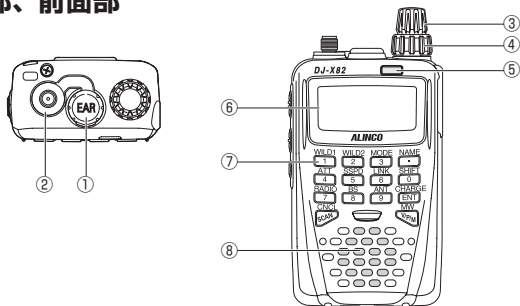
必ずお読みください。

- ・セットする乾電池は、タイプ・メーカーが同じで、新しいものを使用してください。
- ・乾電池を交換するときは、すべての電池を新しいものに換えてください。
- ・弊社指定のニッケル水素バッテリー以外は充電できません。それ以外のバッテリーを使って生じた、身体・財産へのいかなる損害・傷害についても弊社は一切の責任を負いません。
- ・電池類と接する電極の汚れなどをときどき清潔な乾いた布や綿棒で掃除してください。
- ・ACアダプター(EDC-139)を使用しないときは、必ず電源コンセントから外しておいてください。充電しながら受信すると、ノイズが混じることがありますが、異常ではありません。
- ・充電中は本機を揺らしたり、USBケーブルの無駄な抜き差しを繰り返したりしないでください。充電タイマーがリセットされるなど正しく充電できません。

4. 各部の名称と操作

4-1 本体の名称と動作

4-1-1 上部部、前面部

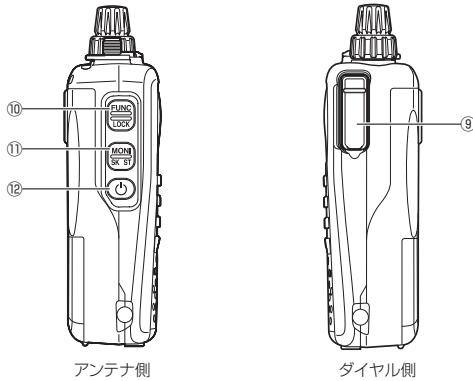


No.	名称	機能
①	イヤホン端子	イヤホンを接続します。ステレオでは片耳しか鳴りません。
②	アンテナコネクター	付属のホイップアンテナや市販のアンテナを取り付けます。本機側のコネクターはSMA-J、アンテナ側はSMA-Pです。
③	ダイヤル	ダイヤルを回すと周波数が変わります。 F 点灯中にダイヤルを押すとセットモードにはいります。
④	リング	リングを回すと音量の調整ができます。他、セットモード時にも使用します。
⑤	ランプ	スケルチが開くと緑色に、設定によって充電時、赤色に点灯します。
⑥	ディスプレイ	本機の状態を表示します。詳細は後述します。
⑦	テンキー	周波数のダイレクト入力や、各種設定に使用します。
⑧	スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。




- イヤホンを耳に装着する際、静電気が溜まりやすい場所や服装で装着すると、耳に静電気ショックを感じる場合がありますのでご注意ください。
- イヤホン端子はデリケートな部品です。ねじったり曲げたり必要以上のストレスをかけないでください。
- イヤホンやUSBケーブルを使わないときはゴムキャップを閉めてください。異物が入りやすくなり、故障の原因になります。
- プラグは必ず最後までしっかり挿入してください。中途半端に挿入された状態では、プラグ・ジャック両方が故障の原因になります。

4-1-2 側面部

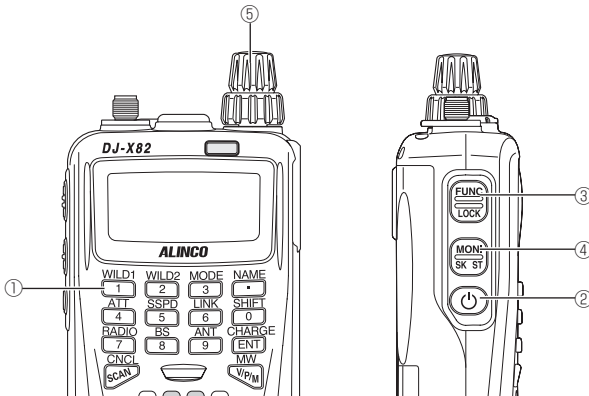


アンテナ側

ダイヤル側


No.	名称	機能
⑨	USBポート	外部電源端子の他、充電やパソコンとの通信に使用します。
⑩	FUNCキー	このキーと他のキーを組み合わせる様々な操作をします。長く押すとキーロックがかかります。
⑪	MONIキー	押すとスケルチが開きます。このキーを押したままダイヤルを回すとスケルチレベルの設定ができます。
⑫		電源スイッチです。電源が入る、もしくは切れるまで長押しします。誤動作を避けるため固めのスイッチになっています。

4-1-3 キー操作



4. 各部の名称と操作


4

No.	名称	機能	FUNCキーを押した後	キーを長く押す (約1秒)	キーを押しながら ダイヤル操作	
①	1	1 を入力	ワイルドキー 1			
	2	2 を入力	ワイルドキー 2			
	3	3 を入力	電波型式切り替え			
	4	4 を入力	アッテネーター機能			
	5	5 を入力	スキャンスピード設定			
	6	6 を入力	リンク設定			
	7	7 を入力	FMラジオ			
	8	8 を入力	バッテリーセーブ機能			
	9	9 を入力	アンテナ切り替え			
	.	小数点を入力	メモリーネーム			
	0	0 を入力	周波数シフト機能			
	ENT	入力の決定、 バンド/バンクの 切り替え	充電機能			バンド/バンク の切り替え
	V/P/M	運用モード 切り替え	メモリーチャンネルの 登録・消去			
SCAN	スキャンキー	空線信号キャンセラー 設定			スキャンモー ドの選択	
②		電源のON/OFF		電源の ON/OFF		
③	FUNC	各種設定切り替え		キーロックの ON/OFF	1MHz単位の アップ・ダウン	
④	MONI	モニター機能	チャンネルステップ /スキップ機能	盗聴器発見 機能(*)	スケルチ調整	
⑤	ダイヤル/ リング	周波数/音量/ その他の設定	セットモード			

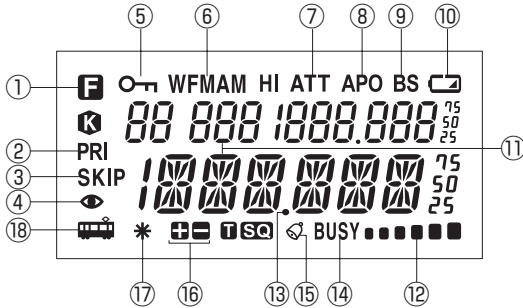
* 盗聴器発見機能はMONIキーとダイヤルを一緒に長く押すと動作します。
詳しくは「盗聴器発見機能(※P59)」をお読みください。



参考

- ケースに印字されている文字は、FUNCキーを押した時に動作する機能の略語です。
- 多くの操作で、スキャン中はキー入力を受け付けません。操作できないときに表示の小数点が点滅していたら、 キーを押してスキャンを止めてください。

4-2 ディスプレイの表示



リセット時に出てくる全点灯状態です。番号が無いマークは本機では未使用です。


No.	名称	機能
①		FUNCキーを押すと点灯します。
②	PRI	プライオリティ機能がONのときに点灯します。
③	SKIP	スキップ設定時に点灯します。
④		盗聴器発見機能ONのときに点灯します。
⑤		キーロック状態の時に点灯します。
⑥	WFAM	電波型式 (AM、FM、WFM) を表示します。
⑦	ATT	アッテネーター動作時に点灯します。
⑧	APO	オートパワーオフ機能がONのときに点灯します。
⑨	BS	バッテリーセーブ機能がONのときに点灯します。
⑩		電池残量が少なくなると点灯します。
⑪		受信周波数や各設定内容などを表示します。
⑫		受信信号の強さを表示します。
⑬	•	スキャン時に点滅します。
⑭	BUSY	スケルチが開くと点灯します。
⑮		ペル機能有効時に点灯します。
⑯		シフト方向を表示します。
⑰	*	メモリーチャンネルをお気に入り登録時に表示されます。
⑱		空線信号キャンセラー設定時に点灯します。

5. 基本操作

※本書中、「キーを押す」はキーを短くしっかり押してからすぐに指を離すことを指します。「キーを長く押す、長押しする」は、その機能が始まるまでキーを押し続けることを指します。間違っただ押しと思わぬ動作をすることがありますので、ご注意ください。

5

5-1 電源を入れる、切る

- 1  キーを長く押すと電源が入ります。誤操作を防止するため、キーを長く押さないと電源が入りません。
電源を切るときも同じ操作をします。

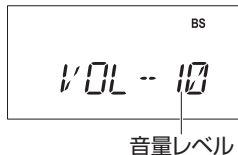
5-2 音量を調整する

音量調整範囲は0～32までの33段階です。
初期値は10です。

- 1 電源キーの上の[MONI]キーを押すと「ザー」とノイズが聞こえるのでリングを回して、適当な音量にします。[MONI]キーを離すとノイズが消えます。

音量レベルが表示されます。

音量は時計回りで増加、反時計回りで減少します。



注意

- イヤホンを使用するときは音量にご注意ください。小さいレベルから始めて実際に音量を確かめながら大きくしてください。
- イヤホン類で音声や音楽を大きな音で聞き続けていると聴力障害の原因となることがあります。音量はこまめに調整してください。聴力に異常を感じたときは、すぐに使用を止めて医師にご相談になることをお勧めします。



参考

音が出ないときは

- スケルチが閉じているときや、ミュート機能が動作しているときは音量を大きくしても受信音は聞こえません。
詳細は、次の「スケルチを調整する(☞P27)」と「モニター/ミュート機能(☞P28)」をお読みください。

5-3 スケルチを調整する

●スケルチとは

受信信号がないときにスピーカーから聞こえる耳障りな「ザー」というノイズを消して待ち受けしやすくする機能です。

スケルチのレベルを上げると弱い信号は受信できなくなります。

信号を受信して音が出ることを「スケルチが開く」と呼び、逆の場合を「スケルチが閉じる」と呼びます。このレベルは受信場所や受信周波数などの条件によって若干変化するので調整できるようになっています。

スケルチレベルの調整範囲は0～9までの10段階です。

スケルチレベルの初期値は3です。

パソコンを使ったデータ通信のデコードなどでは、開放状態で使います。

5

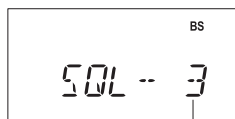
5-3-1 操作方法

1 ダイヤルを短く押して指を離します。

2 イラストのような表示が出ます。

反時計方向に回し切って0になると「ザー」とノイズが鳴ります。

時計方向に回して「ザー」音が消えたレベルから1～2レベル大きな数字に設定します。受信場所の条件が変わってノイズでスケルチが開くときは少しづつレベルを上げて様子を見てください。



スケルチレベル

【重要】

スケルチが閉じていないと後述のスカン(自動選局)はできません。

はっきり聞こえる強い信号だけを受信したいときは敢えてスケルチレベルを上げておくこともあります。音声途切れる時は次項のモニター機能を使います。

5-4 モニター/ミュート機能

- モニターは受信信号が弱いとき、スケルチに消されて途切れ途切れに聞こえるときに一時的にスケルチを開く機能です。
- ミュートとは消音機能です。ミュート時は信号を受信しても音が出されません。受信中に電話がかかってきた…というようなときに素早く消音できます。

モニターとミュートは「モニター/ミュート機能の設定(☞P70)」で選んで設定します。

5

モニター/ミュート機能にはPUSHとHOLDの2種類があります。いずれも[MONI]キーを押すことで動作します。

モニターのときはディスプレイに「BUSY」が点灯し、スケルチが開きます。

ミュートのときはディスプレイの「BUSY」が点滅し、音声を出さなくなります。



- ・ PUSH設定では[MONI]キーを押している間だけモニター/ミュートが動作します。
HOLD設定では一度[MONI]キーを押すとモニター/ミュート状態を保持、再度[MONI]キーを押すと動作前の状態に戻ります。
- ・ PUSHとHOLDの切り替え方法はセットモードの「MONIキー動作の設定(☞P70)」をお読みください。



参考

- ・ モニター機能とミュート機能はいずれか一方しか選べません。
- ・ モニター動作中は空線信号キャンセラーも一時的に解除されます。

6. 運用モード

DJ-X82にはVFOモードとメモリーモードの2つの運用モードがあります。

VFOモード	VFOは無線用語(可変周波数発振器)で、あらかじめ知っている周波数に合わせるときや、受信周波数を上下に連続してスキャン(自動選局)するときに使います。
メモリーモード	あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。

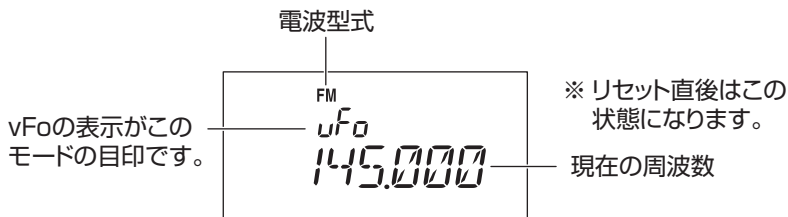
- ・ 運用モードの切り替え：図は、各モードの表示例を表します。



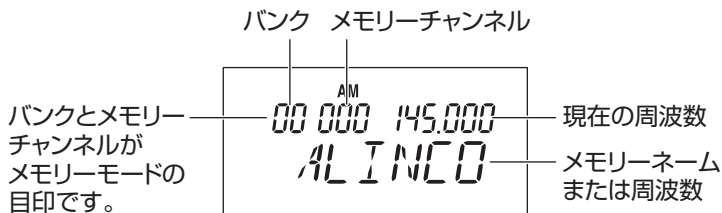
キーを押すごとにモードが切り替わります。

6

●VFOモード



●メモリーモード



(画面は一例です。)

6-1 VFOモードでの受信

周波数の上にvFoが表示されているときは、ダイヤルやキーボード操作で受信周波数を選びます。

- ダイヤルを回すごとにその周波数で最適と思われる数(ステップ)だけ周波数に変化します。
- ENTキーを押すごと、または押したままダイヤルを回すと下表の様な通信が行われている周波数帯(バンドと言います)に大きく移動できます。
- いずれも出荷状態のステップがAUTO設定では、例えば144MHzアマチュア無線の周波数ではFMモードの20KHzステップ、VHFエアバンドではAMモードの25KHzや50KHzステップになります。

初期値	周波数範囲
118.000	(108.000 ~ 141.975MHz)
145.000	(142.000 ~ 148.000MHz)
148.010	(148.010 ~ 169.990MHz)
225.000	(170.000 ~ 322.000MHz)
322.025	(322.025 ~ 322.400MHz)
415.200	(332.500 ~ 429.9875MHz)
433.000	(430.000 ~ 439.980MHz)
464.000	(440.000 ~ 469.9875MHz)

- [FUNC]キーを押しながらダイヤルを回すと1MHz単位で増減するので素早く目的の周波数の近くに移動できます(1MHzアップ・ダウン)。指を離してダイヤルを回し、微調整します。



参考

- 1MHz アップ・ダウン操作時は、各バンドの範囲に関係なく増減します。
- [FUNC]キーを押したまま一度もダイヤルを回さずにいるとピピピと警告が鳴りキーロックします。鍵のマークが出たときはマークが消えるまでFUNCキーを長押しします。
- チャンネルステップの関係上、1MHz単位で増減から外れる場合があります。
- 一部表示されない周波数があります。

周波数を直接入力するときの操作



受信したい周波数を直接入力するとき

例1：450.250MHz = **ATT** **SSPD** **SHIFT** **NAME** **WILD2** **SSPD** **CHARGE**
 4 5 0 . 2 5 ENT

例2：119.000MHz = **WILD1** **WILD1** **ANT** **CHARGE**
 1 1 9 ENT

例3：460.0375MHz = **ATT** **LINK** **SHIFT** **NAME** **SHIFT** **MODE** **RADIO** **SSPD** **CHARGE**
 4 6 0 . 0 3 7 5 ENT

※初期状態のステップがAUTO設定では、460.037で**CHARGE** **ENT** キーを押すと460.025MHzになります。

この状態でダイヤルを右にワンクリックしても460.0375MHzにできません。

周波数を間違えて入力したときはダイヤルを回すと初めから入力をやり直すことができます。受信モード(☞P44)をATにしておけば変更した周波数にプログラムされた電波型式に自動で切り変わります。



参考

- 主要波が限られているエアバンドの管制を受信するとき、この数字キー入力が便利です。

例えば118.1ENTとキーを押せば118.100MHzに、119.5ENTで119.500MHzにすぐ変えられます。

周波数を覚えるかメモしておけば、後述のメモリーチャンネル操作より簡単です。管制官の指示の周波数もすぐに入力できます。

チャンネルステップ(ステップ)の変更

無線通信や放送に割り当てられた周波数と周波数の間隔をステップと言います。

ステップはAUTO時、本機が設計された時点で最適と思われる状態にプログラムしてあります。但し本機ではUHF業務用無線が同調するようAUTO設定しましたが、UHFの軍用航空無線はそれらの隙間を使うことがあり、AUTOのステップや電波型式では受信できないことがあります。このような時はステップを変更します。



注意

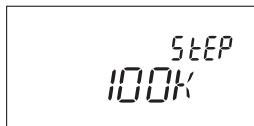
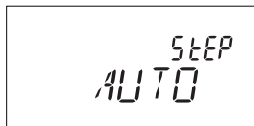
- AUTOを解除すると全てのバンドが選択したステップに固定されます。電源を切ってもステップはAUTOに戻りません。
- 別のジャンルを受信するときにはAUTOに戻さないと目的の周波数に同調できなくなります。

● 選択できるチャンネルステップ

Auto、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz

VFOモードでチャンネルステップを変更したい周波数に合わせてます。


- ・ [FUNC] キーを押し、[F]マークと数字が表示されたら [MONI] キーを押します。ディスプレイに「AUTO」が表示されます。
- ・ 再度 [MONI] キーを押すと「AUTO」からチャンネルステップ (数字) 表示に変わります。
- ・ ダイアルを回してチャンネルステップを選びます。UHF航空無線は100kです。
※ Hzは省略して表示されます。
- ・ 再度 [MONI] キーを押すと「AUTO」に戻せます。
[FUNC] キーを押すと設定が完了し、ディスプレイは周波数表示画面に戻ります。



6-2 メモリーモードでの受信

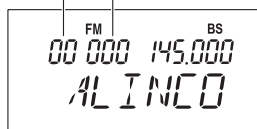
メモリーモードとは、あらかじめよく使う周波数などを登録しておき、受信したい周波数を呼び出して使うモードです。

周波数を使いやすいようにジャンル分けして登録する場所を「バンク」と呼び、登録された周波数を「チャンネル」と呼びます。本機には別冊の周波数データリストのように、現時点で受信できると思われるチャンネルをメモリーデータに書き込んでいますが、それを編集することもできます。

- 1** VFOモードから  キーを押すと、ディスプレイにバンクとメモリーチャンネルが表示されメモリーモードになります。


※ 後述のプライオリティ受信(P.51) 登録をするとVFOとメモリーモードの間に「Pri数字」が表示されることから、VFO/Priority/Memoryの頭文字を取りV/P/Mキーのモード切り替えは2回押すことになります。

バンク メモリーチャンネル









(この図は一例です。)

- 2**  キーでバンクを選択します。

 キーを押しながらダイヤルを回してもバンクを選択できます。

- 3** 受信したいチャンネルを選びます。

・ダイヤルを回すか数字キーで入力します。

例：001CH =  / 012CH =   / 123CH = 
 

ENT操作無しで001/012と押しても入力できます。

登録されていないバンク、チャンネルは選択できません。

6-2-1 メモリーの種類と使いかた

DJ-X82には以下の7種類のメモリーバンクがあります。

通常メモリーバンク (登録済CHあり)	メモリーモードで呼び出す通常のチャンネルです。合計1000chの周波数を登録できます。よく使う周波数を登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。
クイックメモリーバンク	VFOモードで見つけた周波数を簡単に200chまで登録するバンクです。VFO/プログラムスキャン中でもメモリーできます。
プログラムスキャンバンク (登録済ペアあり)	決められた周波数範囲の中で信号を探すプログラムスキャン機能に使用します。50組の周波数範囲(上限と下限)を登録できます。必ずA/bペアで登録します。
サーチパスメモリーバンク	スキャン時に停止してほしくない周波数を登録しておく、VFOスキャンとプログラムスキャンにその周波数では止まりません。100chの周波数を登録できます。常に出ているノイズ信号などを登録すると便利です。
クイックサーチパスメモリーバンク	サーチパスしたい周波数を簡単に200chまで登録するバンクです。VFO/プログラムスキャン中でもメモリーできます。
プライオリティバンク	プライオリティ機能(優先受信)に使用します。100chの周波数を登録できます。
盗聴器発見機能バンク	盗聴器でよく使われている周波数を登録してあります。メモリーの登録や消去はできません。メモリースキップのみ変更できます。



- ・サーチパスメモリー用バンクは、同じ周波数を重複して登録することはできません。登録しようとするエラー音が鳴ります。
- ・工場出荷時にメモリーに書き込まれているデータは弊社で独自に編集しておりますが、周波数の割当てや受信モードなどは変更になることがあります。データの信頼性は保証しておりません。

クイックメモリーとクイックサーチパスメモリーの操作

- 1: VFOモードでメモリーしたい周波数を選びます。クイックメモリーは受信したいもの、クイックサーチパスはVFOスキャンから外したいものです。スキャン中でも手入力でも構いません。登録したい周波数と受信モード(P44)にします。
- 2: クイックメモリーはFUNCキーを押した後、クイックサーチパスメモリーはそのままダイヤルを長押しします。
- 3: 「ピ」と鳴って AT-000、P2-000 のような表示が出たら完了です。受信画面やスキャン状態に戻ります。000はCH番号で、小さい順に自動で割り当てます。
通常のメモリーバンクと同じ操作で編集、削除ができます。

6-2-2 メモリーチャンネルの登録 *次のページに表示のイラストがあります。


- 1 VFOモードで登録したい周波数に合わせます。
- 2 [FUNC]キーを押してディスプレイ左上に **F** を点灯させます。
(このときバンクやメモリーチャンネル番号なども表示されます。)
- 3 リングを回してバンクを選びます。
バンクとメモリーの関係は次のとおりです。

0～9	通常メモリーバンク (メモリーデータ変更などの理由で、初期設定の0～9は変更になる場合があります。PC編集ソフトを使うと50個まで拡張できます。)
At	クイックメモリーバンク *手入力もできます。
PS	プログラムスキャンバンク
PA	サーチパスメモリーバンク
P2	クイックサーチパスメモリーバンク *手入力もできます。
Pr	プライオリティバンク
bG	盗聴器発見機能バンク(編集不可)

用途に合わせて登録するバンクを選びます。

- 4 ダイヤルを回してチャンネルを選びます。
バンクの種類によって登録できるチャンネルは次のとおりです。
・書き込みができるチャンネルは「_ _ _ _ _」が点滅します。





0～10	000～999 (バンクの仕切り方によって登録できるチャンネル数は異なります。)
At	0～199
PS	0A/0b,1A/1b～49A/49b
PA	000～099
P2	000～199
Pr	000～099

- 5  キーを押すとメモリーに周波数が登録されます。
ピーブ音がなりVFOモードに戻り、次のチャンネルを編集することができます。

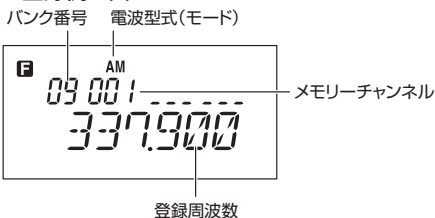


- ・初期設定ではメモリーチャンネルは編集、上書き、消去が自由に行えます。
- 参考** ・セットモードの「メモリー保護機能(初期値OFF)」をONにすると登録したデータは一切編集できなくなります。編集するときにはOFFに戻します。

例：337.900MHz AM をバンク9番の001チャンネルに登録する

- ① VFOモードで周波数を337.900に合わせます。
ダイヤルや数字キーで入力します。AUTO設定だと自動でFMモードになります。
- ② [FUNC]キーを押した後、キーを押すと「WAV - A T」が表示されるのでダイヤルを回して「WAV-AM」にします。[FUNC]キーを押して確定します。
- ③ もう一度[FUNC]キーを押すとメモリーモード同様の小さな数字が表示されます。
- ④ リングでバンク09、ダイヤルで001を選びます。何も登録が無ければ「-----」のような表示がでます。書き込まれたデータは上書きできるので操作を続けます。
上書きしたくないときはダイヤルを回して別の空いたメモリーチャンネルを探します。
- ⑤ キーを押します。
「ピ」と鳴ってVFOモードに戻れば終了です。キーの上の印字MWはメモリーライト(メモリー書き込み)と覚えてください。
キーを押してメモリーモード操作をすると呼び出せます。
- ⑥ 上記2の操作をしてWAV-ATに戻しておきます。戻さないとどの周波数でもAMモードになります。

●メモリー登録例の図



- ・プログラムスキャン(PS)チャンネルバンクは〇〇Aと〇〇bの2つのチャンネルを登録して使います。詳しくは「8-2 スキャン機能(※P53)」をお読みください。

●メモリーに登録が可能な項目

メモリーチャンネルには、下記の内容を記憶することができます。

- ・シフト周波数 ・シフト方向 ・空線信号周波数
- ・お気に入り設定 ・受信モード(電波型式) ・空線信号キャンセラー
- ・メモリーネーム ・スキップ設定 ・周波数ステップ




参考

- ・メモリーの追加増設はできません。
- ・登録したメモリーチャンネルは、周波数の代わりにアルファベット、記号、数字を表示することができます。詳細は「メモリーネーム機能(☞P40)」をお読みください。

6-2-3 メモリーチャンネルとバンクの消去

盗聴器発見機能バンク以外の全てのバンク・チャンネルを消去できます。

1 「メモリー保護機能(☞P72)」をONに変更していれば初期値のOFFに戻します。

初期設定ではFUNCキー押下後  キーを押すとショートカットできます。クイックメモリー、クイックサーチパスメモリーでは、メモリー保護機能は動作しません。


2 キーを押して、メモリーモードにします。

3 消去したいメモリーチャンネルを選びます。

4 [FUNC] キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

5 **F** が点灯中に キーを押すとメモリーされた周波数が消去されます。

 キーを長く押すと「BANK?」が表示され、もう一度

 キーを長く押すとそのチャンネルが含まれるバンク全てのチャンネルが消去されます。



注意

- ・一度消去したデータの復元はできません。間違っても必要なデータを消去しないようご注意ください。弊社HPで配布する編集ソフトでメモリーデータをバックアップ保存できます。



参考

上記の項目の内、受信モード、メモリーネーム、スキップ設定、お気に入り設定、周波数ステップはメモリー登録した後でも変更ができません。弊社製の他の多くの受信機や無線機とは異なりますが、本機では以下のような理由で敢えて仕様を変更しています。

- AUTO設定でUHFエアバンドを入力するとFMモードになる帯域があり、間違ってメモリーして、後で気付く事がある。
- 本機はVFO設定ではなくPSメモリーしたモードとステップでサーチする。

同じメモリーした帯域を違うモードとステップでサーチするとき、この設定で変更すれば、PSペアCHを違うモードとステップで2つ登録しなくて済む。

それ以外の項目は一時的に変更できますが、CH設定や電源操作をすると戻ります。




弊社ウェブサイト(<https://www.alinco.co.jp/>[※]電子事業部)より無償でダウンロードできるソフトウェアを使用すると、これらのメモリーバンクを1000ch以内の任意のチャンネル数×最高50バンクまで自由に区切ることができるようになります。

- この操作を本機単体のボタン操作だけで行うことはできません。
- PC接続は付属のUSBケーブルが対応します。

6

6-2-4 メモリーチャンネルの別バンクへの移動

登録したメモリーチャンネルを別のバンク・チャンネルに移動できます。

- 1** メモリーモードで移動したい周波数を選びます。
- 2** [FUNC]キーを押した後、 キーを長く押します。
画面右上に小さく、周波数が表示され  マークが点滅します。
- 3** リングで移動先のバンク番号を、ダイヤルでチャンネルを選びます。
「_ _ _ _ _」と表示されるチャンネルには、すぐに移動できます。周波数が書かれているチャンネルはメモリー保護機能([※]P72)を解除しておかないと上書きできません。
- 4**  キーを長く押すと移動します。
[FUNC]キーを押すとキャンセルされます。

6-2-5 メモリーチャンネルをVFOモードにコピーする

メモリーチャンネルの周波数をVFOモードにコピーします。メモリーチャンネルから少し周波数をずらして受信したいときや、メモリーチャンネルを編集するときに便利です。

- 1** メモリーモードでVFOモードにコピーしたいチャンネルを選びます。
- 2** ダイアルを長く押すと周波数はメモリーチャンネルのままVFOモードに切り替わります。

6-2-6 メモリースキップとお気に入り選択機能

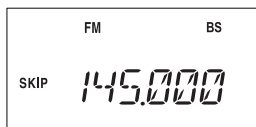
6

(1) メモリースキップ

メモリースキャンのときに、設定したメモリーチャンネルを飛ばす機能です。放送や空線信号の出ているチャンネルは必ずそこでスキップが止まるので、そのようなチャンネルに設定しておくことで効率の良いスキップが行えます。

- 1** メモリーモードでスキップさせたいメモリーチャンネルを選びます。
- 2** [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** や数字が点灯したら [MONI]キーを押します。

ディスプレイ左に「SKIP」が表示されます。メモリースキップを解除するには対象のチャンネルを選んで操作を繰り返します。「SKIP」の表示が消え、メモリースキップが解除されます。



(2) お気に入り選択

スキップとは逆に設定したメモリーチャンネルだけをスキャンする機能です。

- 1** メモリーモードで[FUNC]キーを押した後、ダイアルを押します。
「<DISP>」のようなく >にローマ字が入ったセットモードメニューが表示されます。
- 2** リングを回して「<SCAN>」を選び、ダイアルを押し下げます。
「SLS 2-SEC」のような表示に変わります。

- 3 リングを回して「SCSP SKIP12」のようなメニューを選び、ダイヤルを回して「FAV」に合わせたら[FUNC]キーを押します。(お気に入り、Favoriteの略と覚えてください。)
- 4 メモリーモードに戻ります。全てのメモリーチャンネルに「SKIP」が表示され、メモリースキャンできない状態です。
- 5 スキャンしたいチャンネルで[FUNC]キーを押した後、すぐ下の[MONI]キーを押します。「SKIP」が消え、左下に「*」が表示されます。操作を繰り返すと「SKIP」が表示され、スキャンできない状態に戻れます。
- 6 上記の操作を繰り返してスキャンしたいチャンネルだけに「*」を表示させたら[SCAN]キーを押します。
- 7 通常のスキップ動作に戻るときは[FUNC]キーを押した後にダイヤルを押して「SCSP FAV」を表示、ダイヤルを回して「SKIP12」を選んで[FUNC]キーを押します。

初期値に戻ります。

※他のスキップスキップ設定は後述の「セットモード」で説明します。

- (3) スキップ/お気に入りにした設定をリセットする。
スキップとお気に入り選択を一度に解除できます。他の設定には一切影響しません。
旅行中など受信場所が短時間で変わるとき、一度に消去できるほうが使い勝手が良くなります。
- 1 電源を切り、[SCAN]キーを押したまま電源を入れます。全表示が出たら指を離します。

6-2-7 メモリーネーム機能

メモリーモードで登録したメモリーチャンネルにアルファベット、記号、数字を合わせて6文字まで名前を付けることができます。

※ クイックガイドに入力方法の例が記載されています。


- 1 メモリーモードにします。
- 2 名前を付けたいメモリーチャンネルに合わせます。
- 3 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

6-3 国際VHF(マリン無線)



国際VHFマリン無線は船舶の航行用無線で、航空無線のように特定のルールに従って運用されています。商工業港や船舶の航路付近で良好に受信できます。大型船舶や基地局は高い場所にアンテナがあるため電波の飛びが良く、港や船が見えない場所でも受信できることがあります。16chが呼び出しチャンネルで、全ての局は通信しないときは16chで待ち受けする国際ルールがあります。「国際VHFの運用方法」で検索、総務省の関連HPを参照ください。




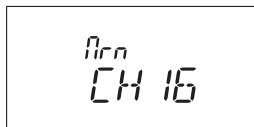
参考

もしFUNCと  キー操作でCH16が表示されないときは、セットモードで別の機能をWILD1に割り当てられています。後述の9-5-3 ワイルドキー(1・2)への機能割り当て(※P71)をお読みください。

6

- 1** [FUNC]キーを押してディスプレイに  を点灯させ、  キーを押します。


初期設定では  キーにマリン無線が設定されています。





- 2** イラストのような国際VHFマリンチャンネルになります。

● 国際VHF(マリン無線)のスキャン


 キーを押しながらダイヤルを回すと「SCAN」が「DUAL」を選べます。


 キーから指を離すと、選択したスキャン方法でスキャンを開始します。

SCAN= 1chから88chまでをスキャンします。

半複信チャンネル( マークのあるチャンネル)は海岸局側を受信します。スキャンを止めて  キーを押すと船舶側を受信できます。

DUAL= 半複信チャンネルを受信中にDUALを選択すると、海岸と船舶の両チャンネルを交互に受信します。単信チャンネルでは動きません。

- ・ スキャン中に表示される*マークは船舶側のチャンネルの表示です。
- ・  キーを押している間は何のチャンネルに合わせていても16chが受信できます。スキャン中でも16chで待ち受けできます。
- ・ SCANを飛ばすSKIP指定もできます。

- 3** スキャンを止め、 キーを押すとメモリーモードになり、マリン受信モードを終了します。

6-4 受信について



- ・DJ-X82は広い範囲の電波を受信する反面、特定の周波数帯専用で作られた無線機と比べると、専用の製品に感度や音質、音量などが劣ることがあります。これは使用目的が異なる製品であるためで、異常ではありません。

- ・通信は放送ではありません。必要な時に、最小限の設備で通話をおこなうため、頻繁に電波が出ている通信は非常に少ないものです。
- ・信号を受信していないときに聞こえるノイズ(バックノイズ、ホワイトノイズなどと呼ばれる物)は、電波型式や空中状態、周波数などによって聞こえ方や音の大きさ、音質が変わります。
- ・使用する電源(AC電源と電池等)、場所や条件(蛍光灯やテレビなど電気機器の有無、木造と鉄筋、お住まいの地域[内陸では船舶無線は受信しにくい等]、立ち止まっているか歩いているか…)、気象条件など様々な要因で受信できる通信は大きく変わります。
- ・付属のようなホイップアンテナは、主に目的の通信の発信場所の近くで受信するために設計されています。建物の中、発信地(管制塔、港…)から離れている、など条件が悪いときは、屋根やベランダにアンテナメーカー製の無線受信用の外部アンテナを設置すると改善します。無線機販売店にご相談ください。
- ・放送局の電波塔や、送信所・中継所が集中する山の近くなど強電界地域では、例えば飛行機の周波数にラジオ放送の音声聞こえたり(混変調)、受信感度が極端に悪くなる(抑圧)ようなことがあります。後述するアッテネーター機能を使えばこれらの混信や妨害を低減できます。
- ・現在受信できる信号がデジタル化やデータ通信化して受信できなくなることがあります。本機のAUTO設定(ステップ、受信モード)は設計時のもので、将来変化することも予想されます。割り当てが変わったときなどは、ステップやモードを個別に設定してプログラムスキャンに登録すると対応できます。AUTO設定を変更することはできません。

7. キーボードに割り当てられた機能

DJ-X82では各キーの上部に印字されている機能がキーに割り当てられています。割り当てられた機能进行操作するには、[FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させてから、キーを押します。

7-1 ワイルドキー機能(ショートカット)

WILD1 **WILD2**
1、**2** キーのそれぞれに、セットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。

よく使う機能を登録しておく、すばやく操作できます。

機能の登録方法は「ワイルドキー(1・2)への機能割り当て(☞P71)」を参照してください。

- **WILD1** **1** キーの初期設定は「国際VHFマリンモード」、**WILD2** **2** キーは「メモリーデータ保護(プロテクト)」です。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

2 **WILD1** **1** キーまたは **WILD2** **2** キーを押して割り当てた機能呼び出します。

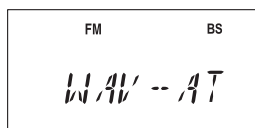
3 その後の操作は割り当てたセットモードの操作に沿って行います。


7-2 受信モード切り替え機能

受信したい信号の電波型式を手動で選ぶことができます。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

2 **MODE** **3** を押します。
ディスプレイに「WAV-AT」と表示されます。



- 3** ダイアルを回すか  キーを押して受信モードを選択します。

受信モードの説明

AT	オート	: あらかじめプログラムされている受信モードを自動的に選択します。
AM	振幅変調	: 主にAMラジオ、短波放送や航空無線などに使用されています。
FM	周波数変調	: アマチュア無線や業務無線などの通信に使用されています。

- 4** [FUNC] キーを押して、設定を完了して終了します。

7-3 アッテネーター(ATT)機能

7

自分が受信している周波数のすぐ近くに別の強い信号があって、その影響と思われるガサガサしたノイズや混信のようなものが聞こえるときに使います。ONに設定すると目的の信号の強さは弱くなりますが、不要な電波も弱くなるため結果として目的の信号をクリアに聞くことができる場合があります。減衰量は約20dBです。通常は必ずOFFにしてください。

- 1** [FUNC]キーを押した後、 を押します。

- 2** ダイアルを回し「ON」にするとディスプレイ上側に「ATT」が点灯してATT機能が動作します。



受信感度が悪くなったと感じた時は、まず表示にATTマークが出ていないか確認してください。

参考

- 3** [FUNC] キーを押して、設定を完了して終了します。

7-4 スキャンスピード切り替え機能

スキャンスピードを変更できます。

強い信号のみを素早く見つけたいときはスピードを速く、弱い電波も受信したいときはスピードを遅くします。

1 [FUNC] キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

2  を押します。

数字が表示されダイヤルを回すと5段階でスピードを調整できます。初期値は3です。

スキャンスピードは

「1」遅い 約50 (ch/step)/秒 ←→ 「3」初期設定 約160/秒
←→ 「5」速い 約250/秒

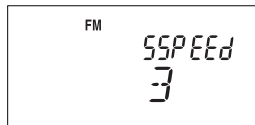
の順で設定できます。

3 [FUNC] キーを押して、設定を完了して終了します。



参考

- ・スキャンスピードを速くしすぎると、弱い信号ではスキャンが止まりません。



7-5 FMラジオ

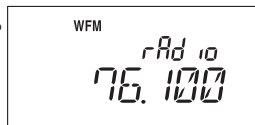
FMラジオを受信することができます。

1 [FUNC] キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

2  を押すと右の画面に変わります。

ダイヤルを回して受信したいFMラジオの周波数に合わせてください。


- ・スケルチをかけてスキャンもできますが、スピードは固定でゆっくりです。
- ・本体の受信構成から独立した専用回路で動作します。本体とは別の「FMラジオ」になる、とご理解ください。音量なども本体の設定とは僅かに異なることがあります。



3 **1** と **2** の操作を繰り返すとVFOモードに切り替わってFMラジオ受信を終了します。

7-6 バッテリーセーブ機能

待ち受け受信中の消費電力を抑え、バッテリーを長持ちさせる機能です。


- 1 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。
- 2  を押します。
ディスプレイに「bS」と表示されます。
- 3 ダイヤルを回すと「OFF」←→「200mS」～「1800mS」を設定できます。数字が大きいほどバッテリー消費を抑えられます。
OFF以外はディスプレイに「BS」が点灯します。
 - ・工場出荷時は800mSに設定されています。通常はOFFにする必要はありませんが、アマチュア無線で行われているパケット通信や航空無線のACARSのようなデータ通信を受信するときはOFFにしてください。
 - ・信号を受信したり、スキャンを行っている間はバッテリーセーブ機能は働きません。バッテリーセーブ時間を長くする（数字を大きくする）と、信号を受信したときに音声のはじめが途切れることがあります。
- 4 [FUNC]キーを押して、設定を完了して終了します。

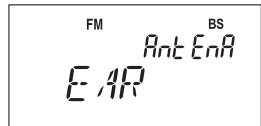


7

7-7 イヤホンアンテナ

イヤホンアンテナを選択すると、FMラジオのような強い信号を外部アンテナなしで受信できます。

- 1 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。
- 2  を押します。
ディスプレイに「AntEnA」と表示されます。
- 3 ダイヤルを回すと「SMA」から「EAR」になり、イヤホンをアンテナとして利用できます。
ディスプレイに右のように表示されます。



4 [FUNC]キーを押して、設定を完了して終了します。



参考

- イヤホンのコードの状態(長さ、巻き方、コードの向き、移動中、など)によって受信信号の強さや安定度が変わります。
- イヤホンアンテナはFM放送や近くから出ている強い電波でないと正しく受信できません。特定の周波数にチューニングしたものではありません。
- 市販のイヤホンでも動作します。

7-8 周波数シフト機能

現在受信している周波数に対して、ワンタッチで受信周波数をずらす機能です。例えば、レピーター(中継器)では、送信周波数(アップリンク周波数)と受信周波数(ダウンリンク周波数)の2つを使って通信しています。この機能を使用するとワンタッチで両方のチャンネルを切り替えられます。この周波数の差をシフト幅と呼びます。

7-8-1 設定のしかた

1 シフト設定したい周波数やチャンネルに合わせてから [FUNC] キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

通常は受信しやすい中継器のダウンリンクや基地局側の周波数を選びます。

2 を押してシフトさせたい周波数の方向に合わせます。

キーを押すごとに表示が右のように切り替わります。

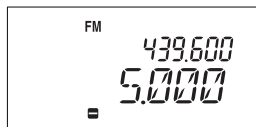


: 受信している周波数より低い方向にシフトします。



: 受信している周波数より高い方向にシフトします。

NO SFT : シフトしません(初期値)



表示される大きな数字はバンドによって変わります。





3 **ダイヤルを回しシフトさせる周波数幅を設定します。**

AUTO設定のステップ幅に合わせて変わります。予め固定ステップを選んでおけばそのステップで変更できます。[FUNC]キーを押したままダイヤルを回すと1MHz単位で周波数変更できます。

4 **[FUNC]キーを押して、設定を完了して終了します。**

例：アマチュア無線の中継器 439.600MHz -5MHzシフトを設定する


- ① VFOかメモリーモードで439.600 FM に合わせます。
- ② [FUNC]キーを押した後  キーを押すと前ページのような画面になります。
- ③  キーを操作して[-]マークを選択します。
- ④ ダイヤルを回して5.000(MHz)に合わせます。
*このバンドではシフトは5MHzに自動で設定されます。
- ⑤ [FUNC]キーを押して、設定を完了して終了します。

5 **中継器の信号を受信中、 キーを押します。**

押している間、アップリンク側の局が受信できる場所に居れば、その信号を受信します。表示の右上に元の周波数、下に大きくシフト後の周波数が表示されます。

**参考**

- ・常にシフト設定で受信したいときはメモリーチャンネル登録時にシフト設定も登録してください。VFOモードで上記のような操作をして、受信できることを確認したら、そのままメモリー登録操作をしてください。

シフト機能を解除するときは、[FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させ、「NO SFT」が表示されるまで  キーを押して、再度 [FUNC]キーを押してください。

**注意**

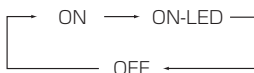
- ・スキャン中はシフト機能は動作しません。
- ・メモリーモードでシフト設定した場合、チャンネルを上書きしないと設定は保存されません。チャンネルの上書きをしない状態でチャンネルを変えるなどの操作をするとシフト設定は解除されます。

7-9 充電機能設定

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

2  を押します。
ディスプレイに「CHARGE」と表示されます。

3 ダイアルを回すと右の図のように切り替わります。



ON	充電します。(初期値)
ON-LED	充電します。充電中はランプが赤く光ります。
OFF	充電しません。

- OFFはPCで編集ソフトを使用中にPCのバッテリーで充電したくない時の設定です。





- 別売充電スタンドにのせて受信する場合、常にバッテリーは充電状態になります。バッテリーを長持ちさせるためには週に1回以上は、バッテリーを使い切るまで充電スタンドから外して受信してください。
- 構造上、正常な乾電池や市販の単三形充電バッテリーはこの設定にかかわらず充電できませんが、電池の皮膜に傷があると充電ができず、故障や事故の原因になることが考えられますので、ご注意ください。

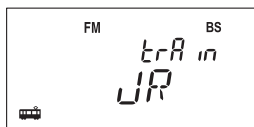
7-10 空線信号キャンセラー機能

鉄道無線で聞こえる空線信号音(「ピー」や「ギャラギャラ」音)にスケルチをかける機能です。

1 空線信号の出ているチャンネルに合わせます。

2 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

3  キーを何度か押しディスプレイ左下に  マークとJR、または300～3000の数字が表示されるメニューを選びます。



- 4** ダイヤルを回してピーやギャラギャラ音が消える数字に合わせます。**SQ** が点灯します。JRのA/B波はJRに合わせます。

[FUNC] キーを押して、設定を完了して終了します。

- 空線信号キャンセラー機能を解除するには。

上記 **3** のときにディスプレイにOFFが表示されている状態を選び [FUNC] キーを押します。



注意

- ・周波数やトーンのスレ、信号強度などの理由から、正しく動作しないことがありますが無線機の故障ではありません。
- ・デジタル化した路線は受信できません。


7-11 プライオリティ機能

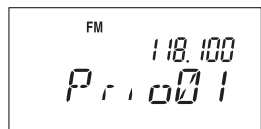
VFOモードで2つのチャンネルを交互に受信し、待ち受け受信の効率をよくできます。

初期設定ではメイン周波数を5秒、プライオリティチャンネルを0.5秒の間隔で繰り返し受信します。

- 1** メモリーモードでプライオリティバンクに、プライオリティ受信したい周波数を登録します (P34)


- 2** VFOモードでメイン受信したい周波数に合わせます。


- 3**  キーを1回押すとプライオリティ登録した周波数が右のイラストのように表示されます。




ダイヤルを回して受信したいチャンネル番号に合わせます。

※プライオリティチャンネルを表示ようになるため、VFOとメモリーモードの切り替えがツータッチに変わります。

- 4**  キーを押すとVFOとプライオリティ周波数を指定の間隔で交互受信します。

ディスプレイ左に「PRI」と表示され、プライオリティチャンネルを受信するときは  が表示され、信号を受信したときはビーブ音が鳴り、その信号がなくなるまで受信し続けます。

5  キーを押すと、PRIが消え、プライオリティ機能が終了します。



参考


- ・プライオリティチャンネルにメモリーが登録されていないときは、プライオリティ機能は動作しません。
- ・プライオリティ機能中はスキャンできません。
- ・一定の間隔で別のチャンネルを受信するため、メインチャンネルの音声途切れて聞こえることがあります。
ATISなど、常に電波が出ている信号を受信中は音声途切れやすくなりますが、故障ではありません。
- ・プライオリティチャンネル側を受信が切り替わる間隔はセットモードの「プライオリティ待ち受け時間設定(☞P68)」で変更できます。
- ・プライオリティチャンネル側を受信したときの停止時間はセットモードの「プライオリティ停止時間設定(☞P68)」で変更できます。


8. 便利な機能

8-1 キーロック機能

使用時や携帯時に誤ってキーやダイヤルが操作されることを防ぐ機能です。

8-1-1 キーロックの方法

[FUNC] キーを長押しするとキーロックがかかり、 マークが点灯します。

再度、同じ操作をすると解除され、 マークが消灯しキーロックが解除されます。

8-1-2 キーロック時にできる操作


電源のオンオフのほかに音量とスケルチの調整ができます。

8-2 スキャン機能

自動的に周波数を切り替えて、電波が出ている信号を探し出す機能です。スキャン機能には下記の種類があります。


VFOスキャン	VFOモードで、バンド内の全周波数をAUTO設定、またはあらかじめ設定したステップでスキャンします。
メモリスキャン	メモリーモードで、メモリーに登録した周波数だけをスキャンします。
プログラムスキャン	スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。サーチと呼ばれることがあります。

●スキャン中の共通操作

- ・  キーを押すとスキャンが止まります。
- ・ スキャン中にダイヤルを回すとスキャン方向を変更できます。
- ・ スキャン中にモニター機能を動作させると、その間はスキャンが一時停止します。モニター機能を解除するとスキャンを再開します。
- ・ スキャンの開始方向は、最後にスキャンした方向によって決まります。
- ・ スキャンを再開する条件を設定することができます。設定方法は「スキャンタイプ切り替え (P67)」をお読みください。


8-2-1 VFOスキャン

1  キーを押してVFOモードにします。

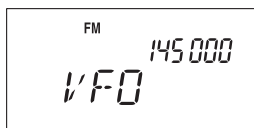
2  キーを押したままダイヤルを回してディスプレイに「VFO」を表示させます。

3  キーを離すとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

4  キーを押すとスキャンを終了し、ドット点滅が止まります。

初期値では受信可能な全バンドをAUTO設定の受信モードとステップでスキャンします。




8


8-2-2 メモリスキャン

メモリスキャンには次の3種類があります。


通常メモリーとクイックメモリーバンク以外はスキャンできません。

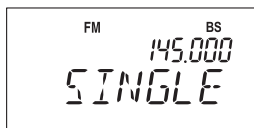
単バンクスキャン	選んだ1つのバンクのみをスキャンします。
グループスキャン	前もって組み合わせさせた複数のバンクをスキャンします。
全バンクスキャン	全ての通常メモリーバンクとクイックメモリーバンクをスキャンします。

1  キーを押してメモリーモードにします。

2  キーを押したままダイヤルを回して、スキャンの種類を選びます。

メモリスキャンの種類は次のとおりです。

- SINGLE …………… そのバンクだけをスキャン
- GROUP …………… 複数の指定したバンクをスキャン
※ 予め設定しておかないと表示されません。
( P55)
- ALL …………… 今のバンクから始めて全てのバンクをスキャン



3 キーを離すとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。
もう一度SCANキーを押すとスキャンが止まります。



- ・スキャン中はキー操作ができない機能がたくさんあります。キー操作がうまくいかないときは、MHz単位のドットを見て点滅していたらSCANキーを押してスキャンを止めてください。

8-2-3 プログラムスキャン(サーチ)

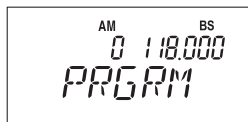
スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。設定した上限の周波数と下限の周波数をプログラムチャンネルやペアと呼びます。本機は50組のプログラムチャンネルを登録できます。「メモリーチャンネルの登録(☞P35)」をお読みください。あらかじめプログラムスキャン用バンクにデータを登録しておかないと、以下の操作はできません。

プログラムスキャン	選んだ1組のプログラムチャンネルの範囲をスキャンします。
プログラムグループスキャン	前もって組み合わせたプログラムチャンネルの範囲をスキャンします。(☞P55) 本書編集時の出荷用メモリーデータには4つ、グループ設定がされています。
全プログラムスキャン	すべてのプログラムスキャン用バンクの範囲をスキャンします。

1 キーを押してVFOモードにします。

2 キーを押したままダイヤルを回して「PRGRM」「PRGLNK」「PRGALL」の中から選択します。

- ・ PRGRM …………… プログラムスキャン
- ・ PRGLNK …………… プログラムグループスキャン
- ・ PRGALL …………… 全プログラムスキャン



3 キーを離すとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。
もう一度SCANキーを押すとスキャンが止まります。



- ・スキャン中はキー操作ができない機能がたくさんあります。キー操作がうまくいかないときは、MHz単位のドットを見て点滅していたらSCANキーを押してスキャンを止めてください。

8-3 メモリスキャンとプログラムスキャンのリンク設定・確認機能

メモリスキャンとプログラムスキャンの時に、バンクまたはプログラムスキャン(PS)チャンネルを自由に組み合わせ、グループ化してスキャンすることができます。それぞれ9組まで設定できます。

(1) メモリーバンクのリンク

例：書き込み済のバンク5のバス・索道とバンク6のV/UHF船舶をグループ2に登録します。


VFOでもメモリーでも運用モードに関係なく操作できます。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに が点灯したら キーを押します。

右のような表示が出ます。



2 設定したいグループ番号を数字キー ~ から選んで押します。

・ここではグループ2にするので  キーを押します。GroUP番号が2に変わります。




3 ダイヤルを回すとBK00の数字が変わります。リンクさせたいバンクの番号を選びます。

・ここではBK005を選びます。

4 キーを押します。BK05の後ろのX表示が○に変わります。


5 ダイヤルを回して次にリンクしたいバンク番号を選びます。

・ここではBK06を選びます。

- 6  キーを押してXを○に変えます。
- 7 **5** と **6** を繰り返して対象のバンクを全て○に変えます。
- 8 リンク作業が終わったら[FUNC]キーを押します。
- 9 編集、解除するときは上記の操作を繰り返し、バンクを選んで  キーを押して○もしくはXにします。全てXにすると  キー押下時のGROUP*表示が消えます。

(2) メモリーリンクスキャン操作

- 1 メモリーモードにします。

- 2  キーを押したままダイヤルを回します。

・ SINGLE, ALLのほかにもGROUP*が表示されます。1 から9まで、設定したグループ番号が表示されます。ここではGROUP 2を選んで指を離します。スキャンが始まります。

スキャン中の操作は通常のリモコンスキャンと変わりません。

(3) プログラムスキャンペアのリンク

本書編集時、書き込み済のメモリーには下記のペアリンクが4つ設定済です。

LINK1 : PS 2/3/4/6/9/10 VHF各種業務

LINK2 : PS 11/12/13/15 UHFエアバンド

LINK3 : PS 16/17/18 UHF各種業務

LINK4 : PS 19/20/22 特定小電力無線


例：PSチャンネル1と21の144MHzと430MHzのアマチュア無線を5番にリンクします。

VFOでもメモリーでも運用モードに関係なく操作できます。



- 1 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** が点灯したら


 キーを押します。

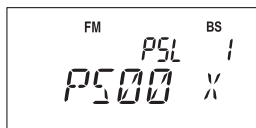
前項と同じGROUP*とBK**表示が出ます。






- 2  を押すと右のようなプログラムスキャンのペアリンク設定画面に切り替わります。

設定したいPSL(リンク)番号を数字キー

 ~  から選んで押します。

・  キーを押すとPSL(PSリンク) 番号が5に変わります。




- 3** ダイアルを回して関連付けしたい始めのPSチャンネル番号を選びます。
 - ・PS01 Xを選びます。
- 4**  キーを押すとXが○に変わります。
- 5** ダイアルを回して次にリンクしたいPSチャンネルを選び  キーを押します。
 - ・PS021を選び  キーを押して○にします。
- 6** 操作を繰り返してリンクしたい番号を○にします。
- 7** [FUNC]キーを押すと確定して終了します。
- 8** 編集、解除するときは上記の操作を繰り返し、チャンネルを選んで  キーを押して○もしくはXにします。全てXにすると  キー押下時のPRGLNK表示が消えます。

8

(4) プログラムリンクスキャン操作

1 VFOモードにします。

2  キーを押したままダイアルを回します。

- ・VFO、PRGRM、PRGALLの他にPRGLNKが表示されます。ダイアルでスキャンしたいリンク番号を選んで指を離します。

スキャン中の操作は通常のプログラムスキャンと変わりません。

8-4 盗聴器発見機能

盗聴器で使われていそうな周波数を自動的にスキャンして、盗聴器を感知する機能です。盗聴器があると判断すると、表示と警告音で知らせます。

本機には「SILENT」と「SOUND」の2モードあります。

また、自分でメモリーした任意のバンクを盗聴器発見機能用バンクと組み合わせさせて盗聴器の感知ができます。

「SILENT」と「SOUND」モードの切り替えはセットモード内の「盗聴器発見機能モードの切り替え(☎P75)」をお読みください。



- 盗聴器発見の感知感度を設定できます。セットモード内の「盗聴器発見機能の感度設定(☎P74)」をお読みください。

参考

- 盗聴器発見機能では、盗聴器発見機能用バンクと組み合わせたバンク内のメモリーチャンネルを感知します。「メモリーバンクのリンク(☎P56)」をお読みください。



注意

- これらの機能は簡易的なもので、セキュリティの安全を保障するものではありません。盗聴器を発見できなかったことに対する補償はご容赦ください。
- 弊社では、盗聴器発見や発見された盗聴器の処理などのサービスは一切行っておりません。また、そのような件に関するお問い合わせにはご返答致しかねます。
- これらの機能では、ノイズや受信場所の環境により誤動作が起りがちですが、動作原理上避けられないものです。
- 産業スパイのようなレベルで情報を得ようとする人は、既に本機のような製品が販売されていることを熟知していて、発見されないような手段を使ったり電波ではなく別の方法で情報を収集したりすることもあります。情報が漏洩している確信があれば、興信所のようなプロにご相談ください。


8-4-1 SILENTモードでの探知

信号を受信するとその受信音をスピーカーから出し、盗聴器であれば起こる「ハウリング」という現象の有無によって精度の高い探知をするモードです。初期状態ではこちらが設定されています。

●SILENTモードでの注意点

- ・このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- ・ノイズなどの影響で誤動作し、スキャンが止まることがあります。盗聴器であれば、ハウリング音に混じって必ず周囲からの音が聞こえます。

1 [MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押します。

ディスプレイに  マークが点滅し、自動的にスキャンを開始します。スキャン中のピープ音はありません。盗聴器があると判断すると警告音をならし、ディスプレイに右のように表示します。

周囲の音がスピーカーから聞こえてくれば盗聴器が仕掛けられている可能性があります（音が大きくなるので注意してください）。



2 ダイヤルを回して音量を調整できるようにしておきます。

本機でハウリングの音（キーン音）が発生するように音量を調整し、盗聴器を探します。このときスピーカーの開口部はふさがらないでください。

3 本機をゆっくり動かします。

盗聴器に近づくとハウリングの音が発生しやすくなり、盗聴器から離れるとハウリングの音が発生しにくくなります。

4 再度、[MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押すと盗聴器発見機能を終了して、通常の受信モードに戻ります。

8-4-2 SOUNDモードでの探知


●SOUNDモードの特徴

DJ-X82から音を出し、盗聴器にその音を感知させ、その信号をDJ-X82が受信するまでの時間差を測り、盗聴器の探知と盗聴器までのおおまかな距離を判定します。盗聴器があると判断すると盗聴器までの距離を音と表示によって教えてくれるのが特徴です。探知中はピーと大きな音を立てます。

●SOUNDモードでの注意点

- ・このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- ・盗聴器発見機能の有効距離は約1～5mです。
- ・盗聴器発見機能は周囲の音や盗聴器の電波の強さ、マイク感度などに大きく影響されます。周囲環境により(音が反響しやすいところなど)誤動作または使用できない場合があります。
- ・盗聴器探知中、本機を急に動かすと、ドブラー効果により誤動作します。
- ・スピーカーの向きと盗聴器の位置関係で正常に動作しないことがあります。
- ・2300Hzの変調がある電波を受信しているときは、正常に動作しません。

1 [MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押します。

ディスプレイに  マークが点滅し、自動的にスキャンを開始します。スキャン中は連続した「ピー」音が出ます。

指定した範囲のスキャンを行って一定時間が経過しても見つからないときは「STOP」と表示して、探知を終了します。



2 DJ-X82をゆっくり動かしながら盗聴器がありそうな場所を探します。

盗聴器があると判断すると「ピッ・ピッ・ピッ」と音が出ます。

本機が盗聴器に近づくと矢印が長くのびて音の間隔が短くなり、盗聴器から離れていくと矢印が短く縮んで、音の間隔が長くなります。



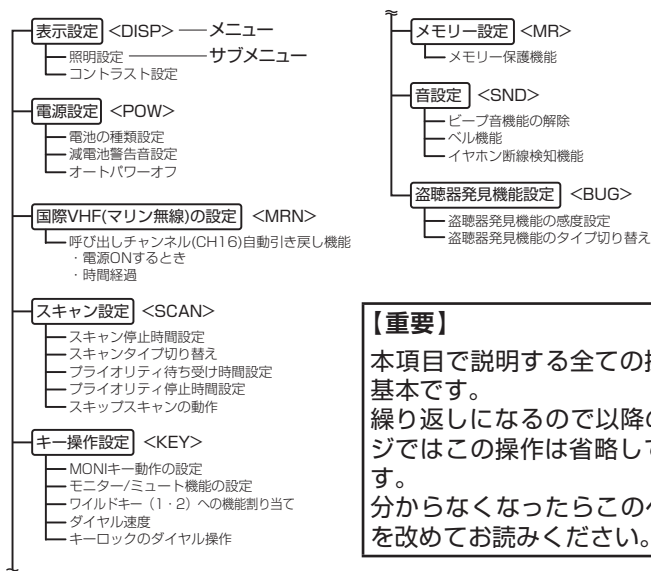
3 再度、[MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押すと盗聴器発見機能を終了して、通常の受信モードに戻ります。

注意

- ・盗聴器によく使用されている周波数の他に、探知したい周波数を盗聴器発見用バンクと組み合わせて盗聴器の探知を行ったときは、スキャン時間が長くなる場合があります。(P56)
- ・セットモードのSND項目にあるピーブ音機能の解除の初期値オンを変更して、オフ(鳴らない)にすると、この機能の探査音「ピー」も鳴らなくなります。

9. セットモード

各種機能を用途にあわせて変更することで本機をより使いやすくすることができます。セットモードでは、次の項目をカスタマイズできます。項目の目次を「メニュー」、その下にある設定項目を「サブメニュー」と呼びます。



【重要】

本項目で説明する全ての操作の基本です。繰り返しになるので以降のページではこの操作は省略しています。分からなくなったらこのページを改めてお読みください。

セットモード共通の操作

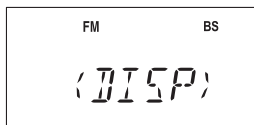
- 1 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。
- 2 ダイアルを押すとセットモードになります。<DISP>のような表示が出ます。
- 3 リングを回して、セットモードのメニューを選択します。
- 4 ダイアルを押すと、サブメニューが表示されます。
- 5 リングを回してサブメニューを選択し、ダイアルを回して設定を変更します。
- 6 [MONI]キーを押すとメニュー選択画面に戻ります。3～5の操作を繰り返して複数の設定ができます。

- 7** [FUNC]キーを押すと設定内容を確定してセットモードを終了します。

9-1 表示設定

この項目はディスプレイ表示や照明の設定を行います。

- 1** セットモードのメニューから<DISP>を選択します。(P62)



- 2** ダイヤルを押すと、表示設定のサブメニューに入ります。

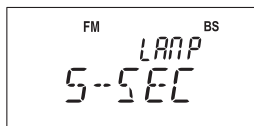
[MONI]キーを押すとメニュー画面<DISP>に戻れます。

9-1-1 LAMP動作の選択

ディスプレイの照明に使っているランプの点灯・消灯の動作を設定します。照明を多用すると電池を早く消費します。

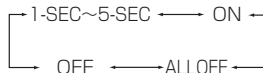
- 1** リングを回して「LAMP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



- 2** ダイヤルを回すと右の図のように切り替わります。

初期値は5-SECです。



OFF	ランプを点灯させません。
1-SEC ~ 5-SEC	本機を操作すると、1 ~ 5秒間ランプが点灯します。
ON	ランプを常に点灯させます。

9-1-2 コントラスト設定

ディスプレイの濃さを見やすくするように変更できます。

- 1** リングを回して「CntrSt」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



- 2** ダイヤルを回すと1 ~ 10の範囲で設定できます。

初期値は7です。

9-2 電源設定

この項目では電源関連の設定を行います。

- 1 メニュー画面でリングを回して
<POW>を選択します。(P62)



- 2 ダイヤルを押すと、電源設定のサブメニューに入ります。

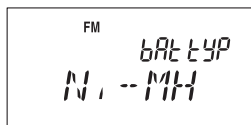
[MON]キーを押すとメニュー画面<POW>に戻れます。

9-2-1 電池の種類設定

正しく動作させるため、お使いの電池に合わせてください。誤った設定にしても故障の原因にはなりません。減電池表示が不正確になり、実際に電池の残量が十分にあって、減電池表示が出たりすることがあります。

- 1 リングを回して「bAttyP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



- 2 ダイヤルを回すと電池の種類の設定を変更できます。

初期値はNi - MHです。

Ni - MH	ニッケル水素バッテリー
LR6 - AA	単三形アルカリ乾電池 / リチウム乾電池

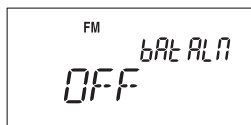
※マンガン乾電池もAAですが、電池の持ちが悪いので推奨していません。

9-2-2 減電池警告音設定

電池が減って電源が切れる前に「ピーピー」と鳴って電池交換を音で知らせます。

- 1 リングを回して「bAtALM」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



- 2 ダイヤルを回すと「OFF」←→
「ON」を設定できます。

「OFF」にすると電池が減っても音が鳴りません。

初期値はOFFです。

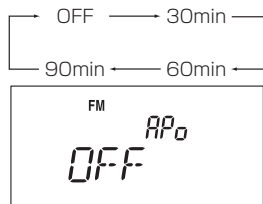
9-2-3 APO機能

オートパワーオフ(お休みタイマー)です。設定した時間、無操作状態が続くと、ピープ音が鳴り自動的に電源が切れます。

1 リングを回して「APo」を選択します。

2 ダイアルを回すと表示が変わり、時間設定ができます。30分、60分、90分とOFFが選択できます。

ディスプレイに右のように表示されます。時間を設定すると受信画面にもAPOが点灯します。初期値はOFFです。



再び電源を入れるには、もう一度電源スイッチを押してください。



- ・ 信号を受信しているだけではAPO時間は延長されませんが、キー操作を行うと、カウントがリセットされ、改めてタイマーが動作します。
- 参考** ・ スキャン・プライオリティ・盗聴器発見機能が動作しているときはタイマーが動作しません。

9

9-3 国際VHF(マリン無線)の設定

この項目では国際VHF(マリン無線)を快適に受信するための設定をおこないます。

1 メニュー画面でリングを回して<MRN>を選択します。(P62)

2 ダイアルを押すと、マリン無線のサブメニューが表示されます。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<MRN>に戻れます。



9-3-1 呼び出しチャンネル(CH16)自動引き戻し機能

マリン無線のCH16は呼出・応答・非常連絡用のメインチャンネルで、船舶は常にこのチャンネルを受信、通話するときだけ別のチャンネルに移ります。ここではCH16への自動復帰条件が選べます。

(1) 電源が入ったときに移動する

- 1 リングを回して「Mrn-16」を選択します。

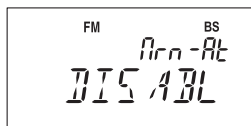


- 2 ダイヤルを回すと「OFF」←→「ON」を設定できます。

ONを選ぶと、本機の電源を入れるたびに前のチャンネル設定に関係なく、WILD 1 キーに割り当てのマリン無線モードはCH16で起動します。初期値はOFFです。

(2) 通信が無い一定の時間が過ぎるとCH16に復帰する

- 1 リングを回して「Mrn-At」を選択します。



- 2 ダイヤルを回すと「DISABL」←→「5-SEC」～「10-MIN」を設定できます。

SECは秒、MINは分を表します。初期値はDISABLです。

DISABL	常に受信中のチャンネルにとどまります。
「5-SEC」～ 「10-MIN」	スケルチが閉じてから、設定時間が経過すると自動的にCH16に戻ります。

9-4 スキャン設定

本機に搭載されている様々なスキャン機能の設定を行います。

- 1 メニュー画面でリングを回して<SCAN>を選択します。
(P62)



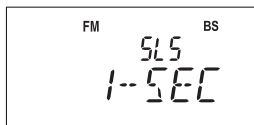
- 2 ダイヤルを押すと、スキャン設定のサブメニューに入ります。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<SCAN>に戻れます。

9-4-1 スキャン停止時間設定

スキャン中に受信した信号が無くなったとき、もう一度スキャンを開始するまでの時間を設定します。

- 1 リングを回して「SLS」を選択します。
- 2 ダイアルを回すと「1-SEC(1秒)」～「60-SEC(60秒)」の範囲で設定できます。

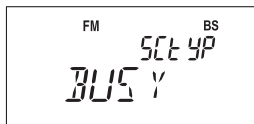


スキャン中にスケルチが開いて止まってから、もう一度スキャンを開始するまでの時間が設定できます。無線のジャンルや通信方法、自分の好みに合わせて設定します。初期値は2-SECです。

9-4-2 スキャンタイプ切り替え

スキャンの再開条件を選びます。

- 1 リングを回して「SCtyP」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。
- 2 ダイアルを回すと「BUSY」↔「1SECT」～「25SECT」が表示されます。



「BUSY」はビジースキャンモード、「1SECT」～「25SECT」はタイマー・スキャンモードです。下の表を参考にお好みの設定にします。初期値はBUSYです。

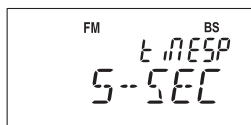
ビジースキャンモード	スキャン停止後、信号が無くなってからSLS項目で設定の時間が経過すると再開します。
タイマー・スキャンモード	スキャン停止後、信号があっても設定時間が経過するとスキャンを再開します。 タイマーの時間は「1SECT」(1秒)～「25SECT」(25秒)の間で設定が可能です。

9-4-3 プライオリティ待ち受け時間設定

プライオリティ機能でのメインチャンネルの待ち受け時間を選択します。

1 リングを回して「tiMESP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと「5-SEC(5秒)」～「10-MIN(10分)」の範囲で設定できます。

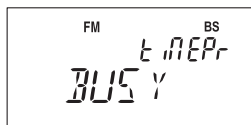
初期値は5-SECです。

9-4-4 プライオリティ停止時間設定

プライオリティ機能でプライオリティチャンネルを受信したときに停止する時間を選択します。

1 リングを回して「tiMEPr」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと「BUSY」←→「1-SEC」～「10-MIN」が表示されます。

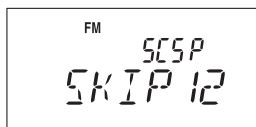
「BUSY」はビジースキャンモード、「1-SEC」～「10-MIN」はタイマースキャンモードです。下の表を参考にお好みの設定にします。初期値はBUSYです。

ビジースキャンモード	プライオリティ CHの信号がなくなればスキャンを再開します。
タイマースキャンモード	プライオリティ CHを受信中でも設定時間が経過するとスキャンを再開します。タイマーの時間は「1-SEC」(1秒)～「10-MIN」(10分)の間で設定が可能です。

9-4-5 スキップスキャンの動作

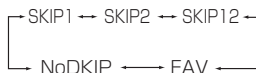
- 1** リングを回して「SCSP」を選択します。

初期値はSKIP12です。



- 2** ダイアルを回すと表示が図のように切り替わります。

スキップスキャンやお気に入り選択に関する動作設定です。どのバンクに入れたスキップチャンネルやスキップ指定を飛ばしてスキャンするかを選択できます。



SKIP1-	サーチパスメモリーバンク(PA)の周波数とスキップ指定したチャンネルをスキップします。
SKIP-2	クイックサーチパスメモリーバンク(P2)の周波数とスキップ指定したチャンネルをスキップします。
SKIP12	サーチパスメモリーバンクとクイックサーチパスメモリーバンクの周波数とスキップ指定したチャンネルをスキップします。
FAV (FAVorite)	メモリーチャンネルに登録されたチャンネルの中でお気に入り登録(メモリーチャンネルを選択し、 ^{MW} MPMキーを長押しし*が表示された状態)されたチャンネルのみスキャンします。
NoSKIP	一切のSKIP/FAVを無視して全CHをスキャンします。

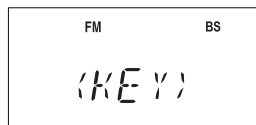
9

9-5 キー操作設定

- 1** メニュー画面でリングを回して<KEY>を選択します。(P62)

- 2** ダイアルを押すと、キー操作のサブメニューが表示されます。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<KEY>に戻れます。



9-5-1 MONIキー動作の設定

- 1** リングを回して「Moni」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



- 2** ダイヤルを回して「PUSH」←→
「HOLD」を選びます。

初期値はPUSHです。

PUSH	[MONI] キーを押しているときだけモニター機能、またはミュート機能が動作します。
HOLD	[MONI] キーを押し、もう一度押すまでモニター機能、またはミュート機能が動作します。

9-5-2 モニター／ミュート機能の設定

- 1** リングを回して「Moni」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



- 2** ダイヤルを回して「MONI」←→
「MUTE」を設定できます。

初期値はMONIです。

MONI	[MONI]キーを押すと一時的にスケルチを開けます。
MUTE	[MONI]キーを押すと一時的に音を消します。

9-5-3 ワイルドキー(1・2)への機能割り当て

WILD1 キーと **WILD2** キーにセットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。よく使うメニューを設定しておくことで素早く設定の変更ができるようになります。

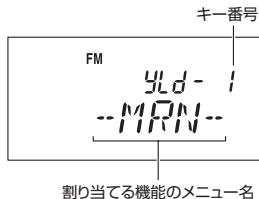
- 1 リングを回して「yLd-1」もしくは「yLd-2」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

WILD1 キーの場合はyLd-1、**WILD2** キーの場合はyLd-2を選択します。

- 2 ダイアルを回すと **WILD1** キーと **WILD2** に割り当てられる機能が表示されます。

初期設定はマリン無線受信とメモリー保護機能です。



9-5-4 ダイアルターボ機能

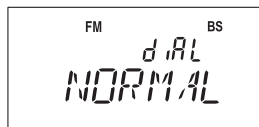
ダイアルを早く回したとき通常よりも早く数値が動く機能です。

- 1 リングを回して「diAL」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

- 2 ダイアルを回すと「NORMAL」
←「TURBO」を設定できます。

TURBOにしてダイアルをひねるように素早く回転させると大幅に周波数を変えられますが、ダイアル部品に負荷がかかるので数字キーやENTキー操作も併用してください。初期値はNORMALです。



9-5-5 キーロック中のダイアル操作

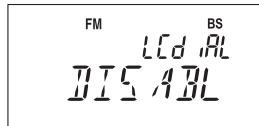
キーロック中にダイアル操作を有効にできます。

- 1 リングを回して「LCdiAL」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

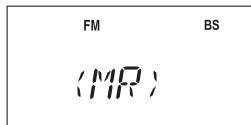
- 2 ダイアルを回すと「DISABL」
←「ENABLE」が設定できます。

初期値はDISABLです。ENABLEにするとダイアル操作ができます。



9-6 メモリー設定

- 1 メニュー画面でリングを回して
<MR>を選択します。(P62)



- 2 ダイヤルを押すと、メモリー設定
サブメニューに入ります。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<MR>に戻れます。

9-6-1 メモリー保護機能

メモリーモードに登録されているチャンネルを編集(上書き、消去)できなくして、登録データを保護します。

- 1 リングを回して「ProtCt」を選択
します。

ディスプレイに右のように表示されます。

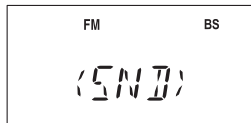


- 2 ダイヤルを回すとONとOFFが切
り替わります。

初期値はOFFで編集できます。ONにすると登録データを保護します。無償の編集ソフトにデータを保存しておけば誤って上書きしたり消したりしてもすぐに復旧できます。編集ソフト使用時は一切の保護がかかりません。

9-7 音操作

- 1 メニュー画面でリングを回して
<SND>を選択します。(P62)



- 2 ダイヤルを押して、音設定のサブ
メニューに入ります。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<SND>に戻れます。

9-7-1 ビープ音機能の解除

キー操作を行ったときになる音をビープ音と呼びます。この音を鳴らないようにすることができます。

- 1 リングを回して「bEEP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



- 2 ダイアルを回すと「ON」←→「OFF」を設定できます。

OFFにするとビープ音はなりません。初期値はONです。



注意

- この設定をOFFにするとAPOのタイムアウト時のアラームやベル機能のベル音、盗聴器発見機能のSOUND音など、音でお知らせするものは一切鳴りません。

9-7-2 ベル機能




着信を音とベルマークでお知らせします。

- 1 リングを回して「bELL」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



- 2 ダイアルを回すと「OFF」←→「ON」を設定できます。

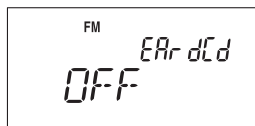
ONにするとディスプレイに  が点灯します。信号を受信すると  が点滅し、ベル音が鳴ります。次にキー操作を行うまで  は点滅しているため不在のときに信号を受信したことがわかる「着信確認」としても使えます。初期値はOFFです。

9-7-3 イヤホン断線検知機能

電源を入れたときに、イヤホンが断線していたらビープ音と表示（「DANSEN」と表示）で知らせる機能です。

- 1 リングを回して「EArdCd」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



- 2** ダイアルを回すと「OFF」←→「ON」を設定できます。
初期値はOFFです。

9-8 盗聴器発見機能設定

- 1** メニュー画面でリングを回して
<BUG>を選択します。(P62)

- 2** ダイアルを押すと、盗聴器発見機能
のサブメニューが表示されます。

[MON]キーを押すとメニュー画面<BUG>に戻れます。



9-8-1 盗聴器発見機能の感度設定

盗聴器発見機能の探知感度を変更できます。

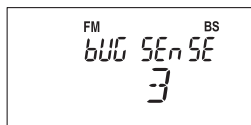
- 1** リングを回して「bUG SEnSE」
を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

- 2** ダイアルを回すと1～5までの範
囲で感度を設定できます。

初期値は3です。

盗聴器発見機能の感度は「1」高い←→「5」低いの順で設定できます。



注意

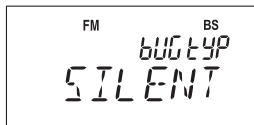
- 感度を高くすると、誤動作を起こしやすくなります。
- 徐々に値を大きくして感度を下げ、盗聴器の設置場所を絞り込みます。
- SOUND/SILENT両方に反映されます。盗聴器の種類や探知する部屋の環境など様々な要因で検知精度が変わることがあるため変更できるようになっています。感度が高すぎると誤動作しやすく、低すぎると正しく検知できないことがあります。

9-8-2 盗聴器発見機能モードの切り替え

盗聴器発見機能の探知方式を設定します。

- 1 リングを回して「bUG tyP」を選択
ます。

ディスプレイに右のように表示されます。





- 2 ダイヤルを回して「SILENT」←→
「SOUND」を選択します。

盗聴器発見機能の詳細は「盗聴器発見機能(※P59)」をご覧ください。

初期値はSILENTです。SOUNDは上級者向けの機能です。

10. チャンネル表示モード

メモリーモードで、周波数のかわりにバンク・チャンネル番号のみを表示し、その他の機能も制限したモードです。業務用の「受令機」モードです。

- 1 あらかじめメモリーを登録しておきます。
- 2 メモリーモードにして電源を切ります。
- 3 [MONI] キー、 キーと  を押しながら電源を入れます。
ディスプレイに右のように表示されます。
同じ操作を行うと解除できます。



参考

- ・ チャンネル表示モード時は、バンク・チャンネルの変更、音量調整、スケルチ調整、MONI/MUTE機能、メモリースキャン、キーロック以外の操作はできません。
- ・ この状態では、一切のリセット操作を受け付けません。
- ・ 受令機は業務無線で「通話は不要だが、受信だけはする必要がある」ユーザーに渡される受信端末です。例えば消防団員に配備される消防無線を受信する端末などがあります。

11. クローン / PC接続機能

クローン機能とは、1台のDJ-X82のデータを別のDJ-X82へコピーする機能です。

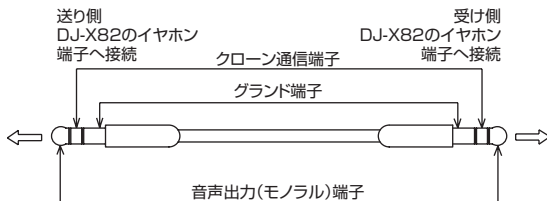
2台のDJ-X82を市販のケーブルで接続し、送り側に設定している情報を受け側へコピーをします。PCがない場所でもデータ交換などができます。

また、PC接続機能によりDJ-X82を付属のUSBケーブルを用いてパソコン(PC)に接続して、専用編集ソフトでメモリーチャンネルや各機能を設定、保存、書き込みできます。

11-1 クローン時の接続方法

この作業を行うときは、必ず本体の電源を切った状態で行ってください。
図のように、送り側のイヤホン端子と受け側のイヤホン端子を市販のφ3.5mmのステレオミニプラグコードで接続します。

●3極ステレオミニプラグコード



*ステレオミニプラグコードは、内部抵抗のない直結タイプを使用してください。
家電量販店、ホームセンターなどで簡単に入手できます。


編集ソフト使用時は付属のUSBケーブルでPCと本機を接続します。
このオーディオケーブルは不要です。

11-2 データを受け取る側の操作

別のDJ-X82からデータをコピーする場合や、パソコンで編集したデータを受け取る時に、この操作を行います。

1 電源を切ります。クローン時はステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。PC使用時は付属のUSBケーブルをPCとUSBポートに接続します。

2 [MONI] キーを押しながら

 キーを押して電源を入れます。ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。PC編集時の操作はこれ以降、ソフト側の説明書をお読みください。



3 この状態で送り側のDJ-X82あるいはPCからのデータが送られてくるのを待ちます。

クローン時のみ次項の「データを送る側の操作」をお読みください。

4 データの転送が完了すると「FINISH」と表示されるので表示を確認してから本体の電源を切ります。



注意

- クローン機能でデータ転送中に何かキーを押すとデータ転送が中断されます。転送を再開するときはダイヤルを押してください。
- データ転送中はケーブルを抜かないでください。ケーブルが抜けると送り側でディスプレイに「FAIL」と表示され、データ転送が中断されます。一度電源を切って、改めて始めからやり直してください。
- データ転送をすると、受け側のデータ内容はすべて送り側のデータ内容に置き替わってしまいます。受け側にデータがある場合は注意してください。メモリー保護は動作しません。

11-3 データを送る側の操作

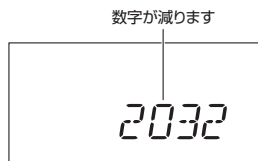
この操作はPC接続には不要です。

1 電源を切ってステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。

2 [MONI] キーを押しながら  キーを押して電源を入れます。

ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。

3 「CLONE」と表示された状態でダイヤルを押すとディスプレイに右のように表示されデータを受け側へ転送します。



4 転送が終わるとディスプレイに「FINISH」と表示されます。ディスプレイに「FAIL」と表示された場合は再度、手順 1 からやり直してください。FAILが出ても故障の原因にはなりません。


5 電源を切ります。

電源を切らないとクローンモードは解除されません。

12. リセット機能

操作が分からなくなったとき、いつもと違う動作をするとき、「故障かな?」と思われるときはまずリセットしてください。メモリーデータは消えません。

12-1 リセットとメモリーデータについて

- 1 [FUNC]キーを押しながら  キーを押して電源を入れます。
- 2 ディスプレイにすべての表示が点灯したら指を離します。初期設定のVFOモードになります。全てのセットモードや数字キー割り当て機能が初期化され、145.000 (MHz)のVFOモードで起動します。



メモリーデータのバックアップについて

参考

本機は一度消したデータを操作で復旧することはできません。パソコンをお持ちであればあらかじめバックアップ用データを保存することを勧めます。

- ① 保存したいメモリーデータを作ります。
- ② 専用編集ソフトを弊社ホームページ

(<https://www.alinco.co.jp/> → 電子事業部 → ダウンロード → 受信機)よりダウンロードして、ソフト側の説明書を読んで準備します。

- ③ 付属のUSBケーブルでパソコンと本機を接続して、保存しておきたいメモリーデータを読み込み、そのデータに適当な名前を付けてPCに保存します。データが消えたときはそれを書き戻します。メモリーデータは好きなだけ編集して保存できるので「関東圏エアバンド」「航空祭」「鉄道無線」のようなデータを編集して使い分けることができます。

パソコンをお持ちでないときは 弊社にお送り頂けば、往復運賃のみお客様のご負担で、弊社のメモリーデータを再書き込みします。本書裏表紙のサービス窓口までお問い合わせください。弊社HPのFAQでもご依頼方法を案内しています。

「アルインコ電子事業部FAQ受信機」で検索、「【受信機】メモリー周波数を誤って消してしまいました。」の項目をお読みください。お客様がご自分で編集・登録されたデータの修復やお客様ご依頼のデータ作成はできません。

13. 保守・参考

13-1 故障とお考えになる前に

次のような症状は故障では無いことがあります。

症状	原因	処置
電源ボタンを押しても、ディスプレイに何も表示されない。	電池が接触不良をおこしている。	本機の電池接触部と電池の電極を清潔な綿棒で拭く。
	電池が消耗している。	充電をするか乾電池を新品に交換する。
	電源スイッチの操作不良。	しっかり力を入れて電源が入るまで押し続ける。
スピーカーから音が出ない。 受信できない。	音量が低すぎる。	音量を上げる。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なスケルチレベルに設定するかリセットする。
	ミュート機能が働いている。	ミュート機能を解除するかリセットする。
周波数表示が異常になっている。	アッテネーターが働いている。	アッテネーターを解除するかリセットする。
	電源電圧低下等によりCPUが誤作動している。	外部電源および電池を外し、10秒以上待ってから取り付ける。それでも解決しないときはリセットする。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える位置に設定する。
キー操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。 [F U N C]キーを長押しして鍵マークを消す。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電をするか乾電池を新品に交換する。
充電しない。	充電器の充電端子が汚れている。充電設定がOFFになっている。EBP179以外を装着している。	清潔な綿棒で充電端子や充電電池側の接触部分の汚れをふき取る。 充電設定を見直すかリセットする。 EBP-179を使用する。

処置をしても異常が続くときは、P80の通常リセットをすることで症状が回復する場合があります。

アフターサービスやサポートは次ページの「アフターサービスについて」をご覧ください。

13-2 オプション一覧

- ・ニッケル水素バッテリー (EBP-179 : 1.2V-1900mAh×2)
- ・充電スタンドセット(EDC-197A)
- ・カールコードイヤホン(EME-26)
- ・耳掛けイヤホン(EME-50)
- ・ストレートケーブルイヤホン(EME-6)
- ・ソフトケース (ESC-68)

13-3 アフターサービスについて

■保証書

保証書は、所定事項(ご購入店名、ご購入日)の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。ご購入時の記載、またはご購入を証明できるレシート等の書類が無い場合は理由を問わず保証点検の対象外とさせていただきます。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。

正常な使用状態で期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって点検修理いたします。

■保証期間が経過した場合

販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。

アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

■製造終了製品に対する保守年限に関して

生産終了後も5年間は最低限の動作をさせるためのバッテリーなどアクセサリーと修理用の保守部品を用意しています。但し災害など不測の事態により在庫がなくなる場合もありますのでご了承願います。

また保守期間を過ぎても可能な限り修理点検のご相談を承っております。

■製造番号のラベルは重要です。

本機の背面に貼られた銀色の銘板ラベルは絶対にはがしたり汚したりしないでください。不正規品としてアフターサービスの対象外となります。製造番号が読めなくなる位置に、ステッカーや飾りを貼り付けしないでください。修理の際に支障が有れば、サービスセンターで破棄しますのであらかじめご了承ください。

※保証に関することとサービスセンターのご利用については弊社ホームページ (<https://www.alinco.co.jp/> → 電子事業部 → FAQ)にFAQを設けて必要な情報を掲載しておりますのでご参照ください。



参考

●全てのメモリーチャンネルの消去を含むオールリセットの方法

通常のリセットはP80に記載があります。オールリセットはメモリーを全て手操作で入力するなど、明確な意図を持って行う上級者向けです。通常は使いません。

オールリセット後は、すべてのメモリーが消去され、復元できません。


- ①メモリー保護機能の設定を「OFF」にします。
- ②[FUNC] キー・ キー・ キーを押しながら電源を入れます。

●エキスパート・セットモードについて

上級者が機能の意味や使い方を分かって設定する上級者向けメニューを使うには、下記の操作でエキスパート・モードにします。

意味が分からず設定するとかえって使いにくくなったり、電池の消費が増えたりするなどの不都合が出ます。増えたメニューの詳細については弊社ホームページ

(<https://www.alinco.co.jp/division/electron/index.html> >ダウンロード>受信機(ワイドバンドレシーバー)>DJ-X82をご覧ください。

- ①  キーを操作して、VFOモードにします。
- ② [FUNC]キーを長押ししてキーロックしたら、素早く[FUNC]キーを6回続けて押します。
操作ピーブ音の後に「ピ」と鳴って表示左上に「E」が表示されます。
 - ・セットモード操作をすると本書で説明していないメニュー項目が増えています。
 - ・同じ操作をすると設定した内容は登録されたまま、エキスパート・モード表示Eと拡張項目を隠すことができます。ひんぱんに変更しない項目なので、セットモードメニューが増えないほうが使い勝手が良いためです。
 - ・設定変更するには再度エキスパート・モードに入って操作します。
 - ・電源を切ってFUNCキーを押しながら電源を入れる通常リセットをすればエキスパート・モードの設定も全て削除、初期化されます。

14. 索引

英数字

ACアダプター	20
AM	45
APC	65
BAND	22, 24
BEEP	73
BELL	73
FM	45
FUNC	23
GROUP	56
HOLD	28, 70
JR	50
LAMP	22, 63
MONI	23, 28, 70
PC接続	77
PRGRM	55
PRI	51
PWR	23
SCAN	53
SILENT	59, 60
SKIP	39, 69
SMA	22
SOUND	59, 60
SPd	46
SSPD	46
USBポート	23
VFOスキャン	53, 54
VFOモード	30
V/P/M	24
WAV	44
WILD	71

あ行

アッテネーター (ATT)	45
イヤホン端子	22
音量	26, 53, 79

か行

外部アンテナ	17
キーロック	53
空線信号キャンセラー	50
クローン	77

さ行

サーチパス	34
残量表示	18, 25
充電	18, 20, 21
充電スタンド	20, 21
周波数シフト	48
受信モード	44
スキップスキャン	69
スキャン	53
スキャンスピード	46
スキャンタイプ	67
スケルチ	27
ストラップ	19
スピーカー	22
セットモード	62
全バンクスキャン	54

た行

タイマースキャン	67
ダイヤル	22
単バンクスキャン	54
チャンネルステップ周波数	32
チャンネル表示モード	76
定格	86
ディスプレイ	22
データ転送	78, 79
電池	17, 18, 50
盗聴器発見機能	59

な行

ニッケル水素バッテリー	18, 20, 50
-------------	------------

は行

ハウリング	60
バッテリーセーブ	47
バンク	33, 34
ピープ音	73
ビジースキャン	67
ファンクションキー	23
付属品	2, 17
プライオリティ	51
プログラムスキャン	55
ベル機能	73
ベルトクリップ	19

ま行

ミュート	28, 70
メモリースキップ	39
メモリースキャン	53, 54
メモリーチャンネル	35
メモリーネーム	40
メモリーバンク	34
メモリー保護	72
メモリーモード	29, 33, 53
モニター	28, 70

ら行

ランプ	63
リセット	80

わ行

ワイルドキー	71
--------	----

15. 定格

周波数範囲	108.000 ~ 141.975MHz /142.000 ~ 148.000MHz 148.010 ~ 169.990MHz /170.000 ~ 322.000MHz 322.025 ~ 322.400MHz /332.500 ~ 429.9875MHz 430.000 ~ 439.980MHz /440.000 ~ 469.9875MHz FMラジオ放送 76.000 ~ 108.000MHz	
電波の型式	AM	A3
	FM/WFM	F3
アンテナインピーダンス	50Ω不平衡 SMA端子	
電源電圧	外部端子/電池端子	USB 5V / 2.4 ~ 3.0V
消費電流	受信定格出力時	約150mA
	待受け時	約90mA
	バッテリーセーブ時	約47mA
周波数安定度	±1.5ppm (使用温度範囲: -10℃ ~ +60℃)	
外形寸法	58W×96H×31D (突起物除く)	
重量	約200g (EBP-179、アンテナ含む)	
受信方式	FM/AM	トリプルスーパーヘテロダイン
	WFM	ダイレクトコンバージョン
中間周波数 (FM/AM)	1st	243.95MHz
	2nd	50.85MHz
	3rd	450kHz
受信感度(代表値)	FM (12dB SINAD)	-8dBμV以下
	WFM (12dB SINAD)	0dBμV以下
	AM (10dB S/N)	1dBμV以下
選択度	FM/AM	50dB以上
低周波出力	最大100mW以上(8Ω時)	

【メモ】

- 仕様・定格は予告なく変更する場合があります。
- 本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる、一部の表示を省略している、等の場合があります。
- 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。

アルインコ株式会社 電子事業部

支店・営業所とサービスセンター（SC）

東京	〒103-0027	東京都中央区日本橋2丁目3番4号	日本橋プラザビル14階	TEL.03-3278-5888
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2丁目2番24号	いちご丸の内サウスビル3階	TEL.052-212-0541
大阪/SC	〒541-0043	大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号	淀屋橋タイビル13階	TEL.06-7636-2361
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号	エコービル2階	TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店またはフリーダイヤル ☎ 0120-464-007

全国どこからでも無料でサービス窓口につながります。

受付時間/月曜～金曜 10-12時、13-17時（土日祝・休業日は除きます。）

ホームページ <https://www.alinco.co.jp/> > 事業案内 > 電子事業部 をご覧ください。

Copyright Alinco, Inc.

PW0030

FNFH-NL